

能代市教育委員会 事務点検・評価報告書

(平成28年度対象)

平成29年8月

能代市教育委員会

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の趣旨等	1
1	点検・評価の趣旨	
2	点検・評価の対象	
3	学識経験者の知見の活用	
4	報告書の作成	
II	点検・評価の結果	2
	基本目標1 豊かな人間性を育む学校教育の推進	
①	主体的で創意ある教育活動の推進	2
②	心豊かでたくましい子どもを育てる指導	7
③	基礎学力の向上を図る学習指導	12
④	幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修	16
⑤	安全・安心な学校教育環境の整備	19
	基本目標2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進	
①	学習の成果を地域に生かす取組の推進	24
②	市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実	27
③	学習を通じた生きがいづくり、仲間づくりの支援	29
④	社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実	31
	基本目標3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進	
①	学校・家庭・地域の連携協力の推進	36
②	保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援	45
③	読書活動の推進	47
④	地域活動に必要な学習機会の提供	49
⑤	食育を通じた健全な子どもの育成	51
	基本目標4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興	
①	伝統芸能の継承	53
②	文化財保護事業の推進	55
③	文化芸術の振興	58
	基本目標5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進	
①	学校と地域における子どものスポーツ機会の充実	61
②	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	64
③	スポーツを活用した地域の活性化	67
④	市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備	69
III	教育委員会の運営状況	71
(1)	教育委員会の開催状況	
(2)	教育委員の活動状況	

I 点検・評価の趣旨等

1 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会自らが、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

事業の点検・評価を実施することで、今後のより効率的で効果的な事業の展開に資するものとしします。

2 点検・評価の対象

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条で教育委員会の職務権限とされている事務のほか、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象としますが、実際の点検・評価にあたっては、「能代市教育等の振興に関する施策の大綱」に記載されている基本目標及び施策の方向性に沿って実施します。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項で、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められていることから、次の2名の方より意見をいただきます。

秋田大学教育文化学部教授 佐藤修司氏
元能代第二中学校校長 佐藤敬顕氏

4 報告書の作成

報告書の作成スケジュールは、次のとおりです。

- ①各課及び施設等において、所管事務の点検・評価案（点検・評価シート）を作成
- ②学識経験者から、点検・評価案について意見を聴取
- ③点検・評価案に学識経験者の意見を加えて、報告書として作成
- ④教育委員会8月定例会で、報告書について議決
- ⑤報告書を9月議会に提出するとともに、ホームページ等で公表

II 点検・評価の結果

【 学校教育課 】

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	① 主体的で創意ある教育活動の推進
方針・目標	児童生徒の感性を磨き、創造力を豊かにするために、各学校の主体的で創意ある教育活動の実施を推進します。
事業・取組名	1 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価 2 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着 3 ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進 4 宇宙・科学技術の学びの充実
目標値	1 学校関係者評価を実施し、すべての学校でその結果を公表します。 2 ・「不読率」を県平均より下回るようにします。 ・学校図書館の図書標準率 100%を目指します。 ・学校図書館の学習センターとしての機能向上を図ります。 3 ふるさと学習の成果を発表する小学生ふるさと学習交流会や中学生ふるさと会議を開催します。 4 子ども館を利用した体験的理科授業を行う小・中学校の増加を図ります。
前年度の意見と対応	<p>■学校関係者評価での提言や意見をふまえた具体的な改善策の構築 ⇒PDCAサイクルに即した教育活動が推進されるよう、各校に働きかけます。学校評価シートを活用して、学校評議員会で説明や評価を行い、改善につなげるよう努めています。</p> <p>■学校図書館の学習センターとしての機能 ⇒よい取組について情報交換できる組織づくりと、図書館担当教諭や学校図書支援員を対象にした研修会の充実に努めています。</p> <p>■ふるさと教育、キャリア教育の充実 ⇒秋田県の学習状況調査を分析し、小学生ふるさと学習交流会や能代っ子中学生ふるさと会議の内容を検討します。</p>
事務事業の実績	<p>1 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価 「あきた型学校評価システム」により、学校関係者評価を実施し、市内 19 校すべての学校でその結果を公表することで、学校・家庭・地域が相互に連携することの重要性を指導した。</p> <p>2 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着 ①「能代市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組 ア 能代市読書交流パンフレット「能代っ子おすすめの一冊・心の一冊」を 10 月の読書週間に合わせて各校に配付し、読書交流のための掲示として活用するよう促した。 イ 各校の特色のある読書活動を共有し児童生徒の指導に生かすために、実践事例集「目指せ！不読率 0」を発行した。 ウ 県立図書館、県生涯学習課生涯学習・読書推進班、市立図書館、市生涯学習・スポーツ振興課と連携し、学校図書支援員及び図書館担当教諭の充実した研修機会の確保に努めた。</p>

②学校図書館図書標準達成状況の改善

- ア 各校の学校図書館図書標準達成状況に応じた、図書整備費を措置した。
- イ 年間3回、図書標準達成状況調査を行って状況を把握し、校長会、教頭会、各研修会等で改善を図るよう説明した。

③学習センターとしての機能

- ア 研修会で秋田県立図書館職員より学んだ「ポップの作り方」を、各校の学習センターとしての学校図書館の環境づくりに生かした。
- イ 社会科や総合的な学習の時間を中心に学校図書館を利用した授業を行い、学校図書館の利用率アップにつなげた。

3 ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進

①地域の自然や人間、社会、文化を生かした教育計画づくりに基づいた取組

- ア 小学校で「ふるさと学習交流会」、能代市の目指す基本理念、三つの「わ」を基にしたテーマでパネルディスカッションを計画した中学校の「能代っ子中学生ふるさと会議」を開催した。
- イ 特色ある教育活動を教育情報誌「教育のしろ」「ふいご」等で紹介した。

②小学生ふるさと学習交流会 発表校3校の内容

- ・ 淳城西小 「ぼくらの松原 ～西っ子ガイド～」
- ・ 第五小 「地域の宝・世界の宝 自然いっぱいの小友沼
～小友沼学習から学んだこと～」
- ・ 鶴形小 「『鶴形そば』が結ぶみんなの心」

③能代っ子中学生ふるさと会議

- ア 体験活動発表 テーマ「魅力あるまち『能代』にするために ～今、自分たちにできること～」
 - ・ 能代東中 「『こころ』でつなぐ能代」
 - ・ ニツ井中 「ニツ井から発信！
～地域の宝伝えよう 世界へ 未来へ～」
 - ・ 能代第二中 「魅せろ二中魂 すべての人に笑顔の花を！」
- イ パネルディスカッション
～ふるさと「能代」を象徴するキャッチフレーズをつくろう～

④人々とのかかわりから学ぶ体験活動の推進

- ア 学校支援ボランティアを活用した体験活動
- イ 補助金制度（鶴形小の森林環境学習活動支援事業）を活用した体験活動の推進

4 宇宙・科学技術の学びの充実

- ・ 学校の要望に応えた内容で、プラネタリウムを活用した星空学習をし、子ども館を理科の学びの場として活用することができた。
- ・ 「宇宙のまち のしろ」が浸透してきたことで、2階宇宙館のガイドを求める声が年々多くなってきた。

点検・評価

- 目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る
 目標を大幅に下回る

[説明]

- 1 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価すべての学校でその結果を公表した。
- 2 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着

①不読率について

27年度・28年度と、2年連続でほぼすべての学年が県平均を下回るよい結果となった。

【平成28年度県学習状況調査 質問紙結果】

学 年	能代市	県比較
小学4年	1.0%	-1.5p
小学5年	2.7%	-1.1p
小学6年	0.8%	-3.0p
中学1年	6.0%	0.0p
中学2年	4.8%	-3.4p

②学校図書標準の達成率について

予算の重点配分等により図書状況が安定してきている。小・中学校ともに平均で100%を超えているが、小学校で2校、中学校で3校が100%に達していない。

学 校	27年度	28年度
小学校平均	107.9%	109.8%
中学校平均	97.3%	102.3%

③学習センターとしての機能

ア 小学校での事例

- ・国語の授業の中に並行読書を取り入れた。
- ・国語や社会の学習に関連した本を教室内や廊下に設置した。
- ・全校辞書引きコンクールを行った。

イ 中学校での事例

- ・図書室で授業を行った。
- ・ビブリオバトル大会やブックトーク集会を行った。
- ・本の紹介のしおりやシート、ポップなどを、生徒の目に付きやすい場所に掲示した。

3 ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進

①小学生ふるさと学習交流会の感想

- ・地域にある豊かな自然・食などについて歴史的背景を含めて多面的によく調べたと感心した。発表を通して、支援してくれた方々との交流も感じられた。
- ・地域の風土、環境を守る取組等、子どもたちが情報を共有して学ぶことができる素晴らしい交流会だったと感じた。

②能代っ子中学生ふるさと会議の参観者の感想

- ・各校の発表やディスカッションで、中学生が自分たちでできることを真剣に考え、それを行動に移していこうとする姿に感動した。

・中学生の目線で見える能代市の姿が分かりやすく発表できていて、とてもよかった。私たち大人も、同じ思いを大切にしてお手伝いできればと思った。

③秋田県学習状況調査質問紙の結果より

【将来の夢や目標をもっている】

学年	能代市	県比較
小学4年	97.2%	+ 2.1p
小学5年	95.1%	+ 2.3p
小学6年	95.9%	+ 4.4p
中学1年	81.3%	- 1.9p
中学2年	81.4%	+ 2.7p

肯定的な評価の割合が、中学校に入ると、小学校の90%台から80%台に落ちる傾向にある。中学生になると進路について、より真剣に考える時期を迎えたためと考えられる。

4 宇宙・科学技術の学びの充実

【子ども館利用数】

学 校	27年度	28年度
小学校	19校	15校
中学校	2校	6校

課 題 及 び 今後の取組の方向性 拡充 継続 廃止検討 その他 ()

[具体的な課題及び取組]

2 読書に親しむ態度と望ましい読書習慣の定着

- ・学校図書館の充実を図り、学校図書標準の達成率においてすべての学校で100%を達成することにより、児童生徒が本に親しむ環境の向上を図る。
- ・学習センターとしての機能を高めるために、各校の取組について「パワーアップ! 目指せ 不読率0」の冊子にまとめるだけでなく、「ふいご」や「教育のしろ」等能代市教育委員会発行の教育情報紙に適宜掲載し、積極的に共有を図る。

3 ふるさと教育の趣旨を生かした教育活動の推進

- ・小学生ふるさと学習交流会、能代っ子中学生ふるさと会議は、参加者の感想から非常によい取組であると捉えることができる。今後も児童生徒、保護者のアンケートを実施してふるさと学習の成果を把握する。
- ・小学生ふるさと学習交流会、中学生ふるさと会議に参加する児童生徒は、各校の代表者または開催校の児童生徒となっている。小・中学校を通して、一度は能代の児童生徒同士で考えを共有する経験をさせたい。そのために、中学生ふるさと会議を中学2年生全員参加の会になるよう計画する。
- ・キャリア教育を中心に、将来の夢や目標を持つことができるような授業を行うよう、全学級訪問等で指導していく。

学 識 経 験 者 の 意 見 ○本報告書にあるように、前年度の意見を明示し、対応した内容を記載していることはPDCAサイクルを回す上でも重要なことであるので、学校段階においても、学校評議員や保護者・児童・生徒等からの要望、意見等を毎年度簡潔にまとめ、次年度にどのように対応したのかを、学校評議員、PTA等にわかりやすく文書で示すなどの工夫をお願いしたい。

○不読率0を目指す実践を冊子にして、全小中学校で共有していることは大変素

	<p>晴らしい取組である。要望としては、冊子の中に、道徳を含め、教科等の授業での活用事例がもっと取り上げられてもいいように思う。そのためには授業に活用できる図書の整備をさらにお願したい。</p> <p>○ふるさと学習交流会、ふるさと会議については、代表者だけでなく、その成果が児童・生徒全体に還元される取組を期待したい。同時に、代表者が選ばれる過程にも児童・生徒全体が関心を持って関われる仕組みを期待したい。</p> <p>●学校関係者評価において、改善を要すると評価された項目があった場合、当該校が改善に向けて具体的にどのように取り組み、その結果がどうであったのかについて、実態を把握したい。</p> <p>●学校図書標準の達成率が、小・中学校ともに平均で100%を超えており、特に中学校では大幅に伸びた。今後は、達成率とともに子どもたちが読みたいと思う本や、子どもたちに読ませたい本という視点からの図書の整備にも、これまで以上に力を入れたい。</p> <p>●中学生ふるさと会議を、今後、2年生全員が参加できるようにしたいとする案には賛成である。代表の生徒だけでなく、すべての生徒がふるさとへの思いを共有できる絶好の場となることを確信する。</p> <p>●子ども館を利用する中学校が増えたことは喜ばしい。「宇宙のまち のしろ」がさらに浸透するよう、引き続き、魅力ある展示内容を期待したい。</p>
--	---

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	② 心豊かでたくましい子どもを育てる指導
方針・目標	いじめや不登校等の生徒指導上の問題について、未然防止や早期発見等、適切な対応に努めます。
事業・取組名	1 生き方を探求し自立を促す指導 2 自己実現を支える生徒指導 3 健やかな心と体の育成 4 防災教育の推進 5 一人一人を生かす特別支援教育
目標値	1 「将来の夢や目標をもっている」と思う児童生徒の割合を80%以上にします。 2 不登校の出現率を1,000人当たり6.0人以下にします。 3 すべての学年において体力合計点を県平均以上にします。 4 すべての学校で、地域や家庭と連携した防災訓練を実施します。 5 すべての学校で、個別の指導計画に基づく実践をし、作成状況を100%にします。
前年度の意見と対応	<p>■いじめ、不登校、問題行動への対応について ⇒心の教室相談員や児童生徒支援アドバイザーの配置、「はまなす広場」や「風の子電話」の設置等、きめ細かな手だてで対応していきます。</p> <p>■防災訓練での保護者・地域住民との連携について ⇒市内小・中学校 19校すべてにおいて地震や津波を想定した避難訓練を実施し、保護者や地域住民の参加を促します。</p> <p>■Q-U検査について ⇒検査結果を活用し、中1ギャップの軽減やいじめ、不登校の未然防止に役立てていきます。</p> <p>■健やかな心と体の育成について ⇒小・中学校において、性に関する年間指導計画に基づいた性教育授業や集会、薬物乱用防止教室等を開催し、指導の充実に努めていきます。</p>
事務事業の実績	<p>1 生き方を探求し自立を促す指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問（所長訪問随行、全学級訪問、教育長訪問、要請訪問）において、授業改善について具体的に指導助言した。 ・児童生徒の主体性を促すためのテーマ設定や、自己を見つめる時間の重要性について代案や事例を示し、具体的に指導助言した。 ・児童生徒の豊かな心の育成につながるよい取組については、教育情報紙「ふいご」や「教育のしろ」に掲載し、共有化を図った。 <p>2 自己実現を支える生徒指導</p> <p>①心の教室相談員の配置（小：12校中5校に5人、中：7校中全校に6人配置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間に心の教室を訪れた人数（延べ人数）11,564人、年間の相談件数485件 ・相談員関わった不登校児童生徒の総数12人、内改善傾向5人 ・いじめに関わる相談0件 <p>②適応指導教室「はまなす広場」の設置（不登校児童生徒への個別指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級者6人 内復帰した児童生徒数1人

	<ul style="list-style-type: none"> ・登校に向けて風の子電話との連携を強化 ③「風の子電話」の設置（電話や来所による教育相談） <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談件数 電話29件 来所64件（不登校39件、生活態度5件、いじめ10件、その他（進路や転学等）39件） ・学校や教育研究所、適応指導教室、他機関との連携 ④不登校保護者会の開催（不登校児童生徒をもつ保護者の援助活動） <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3木曜日19:00～21:00 ・保護者延べ18人参加。2人の児童生徒の学校復帰に関わる。 ⑤児童生徒支援アドバイザーの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・4～6月に全小・中学校を訪問しての児童生徒の実態把握といじめ・不登校対策への指導助言 ・「風の子電話」に寄せられた相談を把握するとともに、各学校における問題等に応じてすぐに学校を訪問し、連携して対策を考えた。 ⑥各小・中学校への指導 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策事業についてのリーフレット等の保護者への配付と市ホームページへの掲載 ・各校におけるいじめ・不登校の現状や支援を要する児童生徒についての月例報告とそれに対する指導助言 ・市生徒指導主事会での児童生徒に関する情報交換やいじめ・不登校未然防止の取組の呼びかけ ・中学生ふるさと会議での「能代市のキャッチフレーズ “未来へつなげよう 能代の資源～自然・心・伝統～”」の策定 ・楽しい学校生活を送るための調査（Q-U検査）の実施（小学校5・6年、中学校1・2年、年2回）と、分析に基づいた指導助言 ・心の教室相談員、教育相談員、スクールカウンセラーの校内の生徒指導研修会等への活用 3 健やかな心と体の育成 <ul style="list-style-type: none"> ①新体力テストの実施と分析 <p>実施後の結果を基に分析を行い、市教委会報「ふいご」に掲載して各校に周知した。また、全学級訪問で各校の課題を確認し助言した。</p> ②「早寝・早起き・朝ご飯」の推進 <p>年間を通して、県教育委員会が掲げる「早寝・早起き・朝ご飯」を呼びかけたり、取組みの推進につながる情報を提供したりした。</p> ③性に関する指導計画の作成と取組の呼びかけ <p>各校の性に関する指導計画を把握し、内容についての指導を行った。</p> ④薬物乱用防止教室開催の呼びかけ <p>薬物乱用防止教室を学校保健計画に位置付け、すべての中学校において年一回は開催するとともに、地域の実情に応じて小学校においても開催に努めるよう呼びかけた。</p> 4 防災教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①「県民防災意識高揚強調週間」における避難訓練・防災訓練の実施の呼びかけ <p>学校・家庭・地域が一丸となった避難訓練や防災訓練の取組、地域防災委員</p>
--	--

会の開催を促した。

②「防災リーフレット」による学校・家庭への啓発
児童生徒、各家庭に「防災リーフレット（平成28年度改訂）」を配付して、各校での防災学習における活用への呼びかけと家庭での啓発を図った。

5 一人一人を生かす特別支援教育

- ・各学校で作成した「個別の指導計画」を提出してもらい、内容を確認した。
- ・学校訪問等で、「個別の教育支援計画」の作成を依頼した。

点 検 ・ 評 価 □目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る

[説明]

1 生き方を探求し自立を促す指導

【将来の夢や目標をもっている P.5の表の再掲】

学年	能代市	県比較
小学4年	97.2%	+ 2.1p
小学5年	95.1%	+ 2.3p
小学6年	95.9%	+ 4.4p
中学1年	81.3%	- 1.9p
中学2年	81.4%	+ 2.7p

ほとんどの学年で県平均を上回っている。これは各校におけるキャリア教育の視点による学習や各種行事・集会の実施、また、心を育てる道徳の時間の実践等の成果と考えられる。中学1年において県平均を下回っていることについては、個別指導と学習後の振り返りを大切にされた指導・支援を引き続き行っていく必要がある。

2 自己実現を支える生徒指導

- ・いじめは、小学校131件、中学校42件が報告された（H27 小24件、中5件）。認知件数の増加は、「いじめ防止対策推進法」によって広義となったいじめの定義が各校で周知され、いじめを積極的に認知した結果だと考えられる。いじめの積極的な認知が早期発見、即時対応、早期解決につながると考える。
- ・不登校の出現率は5.8人（1000人あたり）で、国の12.6人、県の8.9人（H27）を下回るとともに、目標値としている6人（1000人あたり）を下回った。
- ・全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがある」では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が小・中学校ともに80%を超えた。また、「人の役に立つ人間になりたい」では小・中学校ともに95%を超えており、児童生徒の自己肯定感、自己有用感の着実な高まりが見られた。引き続き、否定的な回答をしている児童生徒への相談活動等を通して、きめ細かい支援をしていくよう各校に指導していく。

3 健やかな心と体の育成

【平成28年度新体力テストの体力合計点平均の比較】

学年・性別 県・市別	小1		小2		小3		小4		小5		小6	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
秋田県	32.12	32.99	39.61	41.10	45.48	47.62	51.92	54.19	57.00	59.72	62.74	63.81
能代市	33.37	35.17	40.41	42.49	46.04	47.52	52.03	57.21	56.86	60.87	63.63	65.33
比較	1.25	2.18	0.80	1.39	0.56	-0.10	0.11	3.02	-0.14	1.15	0.89	1.52

学年・性別 県・市別	中1		中2		中3	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
秋田県	35.52	46.94	45.80	52.26	51.75	54.08
能代市	35.77	46.41	47.27	54.39	51.70	55.63
比較	0.25	-0.53	1.47	2.13	-0.05	1.55

【テスト項目】握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール（ハンドボール）投げ、持久走（中学生のみ）

- ・新体力テストの体力合計点については、小3女子（0.1点）、小5男子（0.14点）、中1女子（0.53点）、中3男子（0.05点）が県平均をわずかに下回っているが、ほぼ同等である。テスト項目別に見ると、学年によって県平均を大きく下回っているものもあり、体育の時間における体力向上への取組の工夫をさらに進める必要がある。
- ・薬物乱用防止教室は、中学校7校すべて実施した。

4 防災教育の推進

- ・県民防災意識高揚強調週間の期間中、市内の小・中学校19校のすべてが地震・津波を想定した避難訓練を実施した。
- ・保護者・地域住民と連携しながら避難訓練を実施した学校は14校、地域防災委員会も19校すべてにおいて設置した。

5 一人一人を生かす特別支援教育

- ・個別の支援を必要としている児童生徒のすべてについて、作成した「個別の指導計画」の提出を求めた。

課題及び
今後の取組の
方向性

拡充 継続 廃止検討 その他（ ）

[具体的な課題及び取組]

1 生き方を探求し自立を促す指導

「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の数値が、小学校は県平均を上回り、95%を超えている。しかし、中学校においては80%台で、県平均を下回っている学年もある。そのため、「能代っ子中学生ふるさと会議」等との関連を図った授業や道徳の時間、特別活動等において、自己の将来について生徒同士で意見交流しながら考える時間を十分に確保し、キャリアプランニングの力を育てていく。

2 自己実現を支える生徒指導

- ・児童生徒の変化に気が付く教師の観察眼を養うよう、校長会や教頭会で呼びかける。
- ・「いじめ問題対策連絡協議会」を年2回開催して本市のいじめ問題の現状を把握し、学校・家庭・地域その他関係者が連携を図って対応する。また自己有用感を高め、すべての児童生徒の安全・安心な学校生活へ向けて、各校のいじめ防止基本方針の学校・家庭・地域での共有を推進し、「いじめは絶対に許さない。」という学校風土をつくる。
- ・指導主事並びに児童生徒支援アドバイザーがすべての学校を訪問し、各校の不登校・いじめ等の生徒指導上の問題を把握し、学校と教育委員会が連携しながら改善策について考え実施する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生から中学校2年生を対象にQ-U検査（「楽しい学校生活を送るためのアンケート」）を実施する。分析に基づき、児童生徒の人間関係等の把握による中一ギャップの軽減や不登校・いじめの未然防止、早期解決へ向けた早期発見と即時対応に生かす。 3 健やかな心と体の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・各校において新体力テストの結果を分析し、体育の授業を中心に、高めた運動特性につながる運動を積極的に取り入れるよう指導する。 ・学校保健計画の中に、性に関する学習活動や薬物防止乱用教室を明確に位置付け、意図的・計画的に取り組んでいくよう指導する。 4 防災教育の推進 <p>防災マニュアルを活用し、取組のPDCAサイクルによって防災教育を推進していくよう各校に周知していく。また、地域防災委員会の働きを生かし、地域の実態把握を行いながら防災計画を見直していくよう働きかける。</p> 5 一人一人を生かす特別支援教育 <p>「個別の指導計画」に基づく意図的・計画的な支援を呼びかける。また、「個別の教育支援計画」の作成を学校訪問や特別支援教育の研修会で依頼し、1・2月の事務点検で確認する。</p>
<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢・目標を持っている割合は、特に低くなっている中学1年について、前年の小学6年の時、前々年の小学5年の時に比べて、県平均との格差の推移を見るなどして、注意深く分析して指導にあたっていただくといいように思う。 ○さまざまな対策が行われており、効果も上がっているので、Q-U調査などを活用した指導の事例を集めて研修などで活用するなど、経験を共有化する取組を一層進めていただきたい。 ○防災教育、防災訓練については、参加者のアンケートを取るなどしていると思われるが、有効度や、そこで出た意見を踏まえた取組を重ねていただきたい。 ○不登校・いじめ等を未然に防止する意味からも、全員が主人公になり、輝けるような学校づくり、学級づくり、授業づくりに引き続き取り組んでいただきたい。 ●不登校の出現率が5.8人と、目標値の6人を下回った。各学校での魅力ある学校づくりに向けた取組に加え、「はまなす広場」や「風の子電話」等を通しての緻密な支援が功を奏したものと思う。 ●いじめを早期に発見し、未然に防止するためには、教職員、とりわけ学級担任の予知力（いじめの兆候にいち早く気付く力）が、何にも増して求められる。予知力を高めるための研修の機会を、重層的に設定したいものである。 ●地震・津波を想定した避難訓練が、すべての小・中学校で行われており、薬物乱用防止教室が、すべての中学校で実施されている。今後とも、地域の実態に即した防災教育と、子どもたちを将来的に薬物から守るための取組を推進して行ってほしい。

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	③ 基礎学力の向上を図る学習指導
方針・目標	児童生徒に主体的な学習の場を保証し、学力の向上を図ります。
事業・取組名	1 基本的な学習習慣の確立 2 子どもが主体的に取り組める学習指導 3 評価を生かした授業改善 4 ねらいに即したICTの効果的な活用
目標値	1 「学校がある日の勉強時間」（1時間以上勉強している児童生徒の割合）が県平均を上回るようにします。 2 学習意欲に関する評価が小学生で80%以上、中学生で60%以上、児童生徒同士の学び合いに関する評価が、小・中学校とも90%以上を目指します。 3 授業改善の取組事例を、教育情報紙で9授業以上紹介します。 4 ICTの効果的な活用方法の情報交換を行います。
前年度の意見と対応	■児童生徒が主体的に取り組めるような授業づくり ⇒学校訪問の指導助言や情報紙等での紹介により、「秋田の探究型授業」の定着に努めていきます。 ■学力向上に向けた取組 ⇒学習状況調査等の分析を行って各学校や各学年の課題を把握し、その対策の工夫と徹底に努めていきます。
事務事業の実績	1 基本的な学習習慣の確立 県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、中堅教員研修会、研究主任会での情報交換及び指導助言等を実施した。 2 子どもが主体的に取り組める学習指導 ①県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、研究主任会での情報交換及び指導助言等を実施した。 ・個々の児童生徒の補充学習実施の促進を図った。 ・学校や教師の課題を明確にした授業改善の促進を図った。 ・授業改善のための研究主任のリーダーシップを促す支援をした。 ②研修機会（中堅教員研修会、講師等研修会、理科学力向上研修会、研究主任会等）の提供と各校の情報共有を行った。 ・拠点校・協力校英語授業改善プログラム（湊城西小）の公開授業において、小・中担当教諭が2020年の教科化に向けた方向性を共有化した。 ・能代市山本郡の講師を対象に、講師等研修会を2回（8月、1月）開催し、授業の学び合いの場面の在り方や話合いのさせ方について指導助言した。 ・全小学校の理科担当者を対象に「小学校理科担当者研修会」や「理科学力向上研修会」を開催し、理科の学習の進め方や指導方法の情報交換を行った。 ・各校の校内研究や学校の特色ある教育活動を紹介する紀要「教育課程の展開と実践『能代の教育』」を発行（2月）した。 3 評価を生かした授業改善 ・学校訪問（所長訪問随員、全学級訪問、教育長訪問、要請訪問）において、授業改善について具体的に指導助言した。 ・全学級訪問では、児童生徒の主体性を促すための課題設定や、話し合い活動

	<p>の在り方について代案や事例を示し、具体的に指導助言した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体性が見えるよい取組については、教育情報紙「ふいご」や「教育のしろ」に掲載し、共有化を図った。 <p>4 ねらいに即したICTの効果的な活用 各種訪問等で参観した授業から、ねらいに即したICTの効果的な活用の取組について、教育情報紙「ふいご」に掲載して共有化を図った。</p>																																				
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>1 基本的な学習習慣の確立 学習状況調査（12月実施）の結果は、小・中学校ともに全教科で県平均を上回った。中2の理科は2年連続県平均を下回っていたが、4.2ポイント上回ることができた。</p> <p>【学校がある日の勉強時間（1時間以上勉強している児童生徒の割合）】</p> <table border="1" data-bbox="472 757 1139 1034"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>能代市</th> <th>県比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>40.0%</td> <td>+ 1.8p</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>59.4%</td> <td>+ 6.9p</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>68.8%</td> <td>+ 6.1p</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>76.3%</td> <td>+ 1.9p</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>57.7%</td> <td>-10.8p</td> </tr> </tbody> </table> <p>中2は県平均を10ポイント以上、下回る結果であった。 今後は、現中学3年生への対応や小・中が連携した学び方指導、家庭への啓発等を小・中学校に指導する。</p> <p>2 子どもが主体的に取り組める学習指導 ①学習意欲は「勉強が好きだ」の割合</p> <table border="1" data-bbox="472 1281 1139 1559"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>能代市</th> <th>県比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>93.0%</td> <td>+ 6.6p</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>89.2%</td> <td>+ 7.1p</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>90.7%</td> <td>+12.9p</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>64.9%</td> <td>+ 0.3p</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>56.7%</td> <td>+ 4.3p</td> </tr> </tbody> </table> <p>小4から中1までは、目標値を上回った。特に、小6では、10ポイント上回る結果であり、各教科の結果もすべて高かった。 逆に、中2では目標値を3.3ポイント下回った。学習意欲と成績の相関関係について分析する。</p>	学 年	能代市	県比較	小学4年	40.0%	+ 1.8p	小学5年	59.4%	+ 6.9p	小学6年	68.8%	+ 6.1p	中学1年	76.3%	+ 1.9p	中学2年	57.7%	-10.8p	学 年	能代市	県比較	小学4年	93.0%	+ 6.6p	小学5年	89.2%	+ 7.1p	小学6年	90.7%	+12.9p	中学1年	64.9%	+ 0.3p	中学2年	56.7%	+ 4.3p
学 年	能代市	県比較																																			
小学4年	40.0%	+ 1.8p																																			
小学5年	59.4%	+ 6.9p																																			
小学6年	68.8%	+ 6.1p																																			
中学1年	76.3%	+ 1.9p																																			
中学2年	57.7%	-10.8p																																			
学 年	能代市	県比較																																			
小学4年	93.0%	+ 6.6p																																			
小学5年	89.2%	+ 7.1p																																			
小学6年	90.7%	+12.9p																																			
中学1年	64.9%	+ 0.3p																																			
中学2年	56.7%	+ 4.3p																																			

②「ふだんの授業では、学校の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」の割合

学 年	能代市	県比較
小学4年	94.3%	+ 1.9p
小学5年	97.6%	+ 4.0p
小学6年	98.2%	+ 3.2p
中学1年	97.1%	+ 2.6p
中学2年	95.7%	+ 1.5p

すべての学年で目標値を上回った。授業者が子ども主体の授業を構築しようとしていることが伺える。

3 評価を生かした授業改善

次の授業例等を19授業紹介した。

例①能代第一中（国語）：本時で身に付けた力を実感できるように、学習のまとめの視点を与えていた。他の教材を読む際に使える「力」を生徒自身に実感させる授業であった。

例②向能代小（算数）：前時の児童の振り返りをもとに、本時の計算の仕方の違いに着目させ、よりよい解き方を求めるための必要感のある本時の課題に結び付けていった。

4 ねらいに即したICTの効果的な活用

実践例：常盤中（保健体育）

跳び箱の授業で、友達の姿を動画で撮り、その都度、大型テレビに映し出して互いにアドバイスし合い繰り返し練習をした。普段、自分の技能の上達を映像で見ることができないが、情報機器を活用することにより、客観的に見たり助言し合ったりして学ぶことは効果的な手立てであった。

課 題 及 び
今後の取組の
方 向 性

拡充 継続 廃止検討 その他（ ）

[具体的な課題及び取組]

3 中堅教員研修会等で、さらなる「話し合い」の充実を図るために、教師のコーディネート力を意識した授業改善について研究を進め、中堅教員の指導力向上を図る。

4 隔年で開催する情報教育研修会において、ICTの効果的な活用をしている取組や活用状況等を発表したり紹介し合ったりして、情報を共有する。

学 識 経 験 者
の 意 見

○学校がある日の勉強時間は、特に低くなっている中学2年が、前年の中1の時、前々年の小6の時に比べて、県平均との格差が縮まっているのか、広がっているのか、学校間の差がどの程度あるのかについても分析していただきたい。

●秋田県学習状況調査では、小・中学校とも、すべての教科で県平均を上回っており、引き続き、良好な状況と言える。

●同調査では、「学校がある日に1時間以上勉強している」という中学2年生の割合が、昨年（中学1年生時）に引き続き、県平均を大きく下回っている。当学年については、その原因を分析し、対策を講ずることが求められる。

●同調査では、「ふだんの授業では、学校の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う」と答えた児童生徒の割合が、すべての学年で目標値を上回っている。話し合いを通して課題を解決したときの喜びや楽しさを、子どもた

	ちに体感させるべく、今後とも話し合いの場が確保された授業づくりに努めたい。
--	---------------------------------------

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	④ 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修
方針・目標	学校や教職員の課題に応じた研修機会の提供と充実により、教職員の識見を広げ、実践的指導力を向上させます。
事業・取組名	1 学力向上のための研修 2 安全・安心な学校づくりのための研修 3 学びをより豊にするための研修
目標値	各研修会参加者の肯定的評価が、4段階評価で3.6以上となるようにします。
前年度の意見と対応	<p>■校外研修を校内研修に結びつけるなど、校内研修についても、調査・把握し、その活性化に努めていただきたい。 ⇒校外研修を生かした校内研修の事例を、各校に情報提供していきます。</p> <p>■教職員が研修等により職能向上に取り組めるよう、その条件整備として、多忙化対策等に取り組んでいただきたい。 ⇒校長会や教頭会を通して、学校評価等を生かした多忙化解消に向けての取組を促していきます。</p> <p>■各研修会の参加者の肯定的評価が目標値を上回っており良好と思う。今後とも、実践的で分かりやすい内容の研修となるよう企画・運営に努めてほしい。 ⇒先生方が教育課題に対応した実践ができるように、研修内容や方法を工夫していきます。</p> <p>■県総合教育センターで行われる研修講座等への参加も、一層呼びかけてほしい。 ⇒教育誌「教育のしろ」で公開講座への参加を呼びかけるほか、今後は教育情報誌「ふいご」も活用していきます。</p>
事務事業の実績	<p>①職務別研修を実施した。</p> <p>ア 教務主任・研究主任の合同研修会（7、1月） ミドルリーダーとして期待されることについての講義、情報交換</p> <p>イ 研究主任会（11月） 豊島区教員派遣報告、教育専門監の授業DVDの活用</p> <p>ウ 中堅教員研修会（6、8、1月） 1年間を通しての研究、豊島区への派遣、県総合教育センターでの発表等</p> <p>エ 特別支援教育担任等研修会（7月） 秋田大学非常勤職員を講師とした講義、情報交換</p> <p>オ 中堅教員及びベテラン教員を対象に教員研修（8月） 豊島区への教員派遣</p> <p>②教職経験者研修を実施した。</p> <p>ア 初任者研修（5、8月） 1回目：服務及びいじめ・不登校防止についての講義、学習指導・生徒指導についての成果と課題 2回目：能代市の主な施設の視察</p> <p>イ 講師等研修（8、1月） 1回目：指導主事による講義、道徳の授業における学び合いの工夫 2回目：指導主事による道徳の模擬授業、道徳の教材研究の仕方</p> <p>③テーマ別研修を実施した。</p> <p>ア 読書活動推進研修会（5月）</p> <p>イ モデルロケット研修会（5月）</p>

	<p>ウ 理科学力向上研修会（6月）</p> <p>エ 東京都豊島区との教育連携を生かした研修（6月、11月）</p>																		
点検・評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>目標を上回る <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田大学と連携した特別支援教育研修会、秋田県立図書館と連携した読書活動推進研修会等を企画・運営し、学校現場へ学校や市の課題に応じた研修会を提供することができた。 ・教育専門監の模擬授業の提示により、指導方法の改善に向け、具体を示すことができた。 ・中堅教員に対しミドルリーダーとしての自覚を促し、実践知の継承を意図的に行うことについて、各校に問題提起をすることができた。 ・それぞれの研修会で4段階の事後アンケートを実施したところ、参加者から内容が実践的で分かりやすかったなどの評価を得ている。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合同研修会(教務・研究) 1回目</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 3.8</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.8</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">2回目</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 3.9</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.9</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">中堅教員研修会</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 4.0</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.9</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">特別支援教育研修会（秋大連携）</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 3.9</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.8</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">初任者研修Ⅰ（ワークショップ）</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 4.0</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 3.9</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">初任者研修Ⅱ（視察研修）</td> <td style="padding-left: 20px;">実践 4.0</td> <td style="padding-left: 20px;">内容 4.0</td> </tr> </table>	合同研修会(教務・研究) 1回目	実践 3.8	内容 3.8	2回目	実践 3.9	内容 3.9	中堅教員研修会	実践 4.0	内容 3.9	特別支援教育研修会（秋大連携）	実践 3.9	内容 3.8	初任者研修Ⅰ（ワークショップ）	実践 4.0	内容 3.9	初任者研修Ⅱ（視察研修）	実践 4.0	内容 4.0
合同研修会(教務・研究) 1回目	実践 3.8	内容 3.8																	
2回目	実践 3.9	内容 3.9																	
中堅教員研修会	実践 4.0	内容 3.9																	
特別支援教育研修会（秋大連携）	実践 3.9	内容 3.8																	
初任者研修Ⅰ（ワークショップ）	実践 4.0	内容 3.9																	
初任者研修Ⅱ（視察研修）	実践 4.0	内容 4.0																	
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ミドルリーダーを育成する研修の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・市中堅教員研修会の実施 ・教務主任・研究主任合同研修会の内容充実 ②教科の指導力向上に関する研修の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修、講師等研修における具体的な指導方法の提示 ・中堅教員のテーマ別研修の充実 ③生徒指導の機能を指導に生かすための研修の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒支援アドバイザーによる学校訪問の実施 ・心の教室相談員による研修会の実施 ・ネットトラブル防止の情報教育研修会の実施 ④理科教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども館のセンター的機能を生かした事業の拡充 ・秋田大学と連携してのモデルロケット授業 ・理科学力向上研修会の実施 ⑤特別支援教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・秋田大学との連携による研修会の実施 ⑥ICT活用に関する研修の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業力向上研修会の実施 ⑦教育連携を生かした研修を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・東京都豊島区、茨城県坂東市、長野県箕輪町 																		
学識経験者の意見	<p>○引き続き、校外研修を校内研修に結びつけることを目指し、その事例を共有できるようにしていただきたい。</p>																		

	<p>○校内研修、校外研修に十分に取り組めるように多忙化の解消に引き続き取り組んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指導力の維持・継承に向けて、中堅教員研修や教務主任・研究主任の合同研修会等が計画的に行われている。今後とも、各種の研修会等の開催に加え、教育情報紙「ふいご」や「教育のしろ」などを介して、優れた実践に学ぶ機会をどんどん提供して欲しい。 ●心の教室相談員制度が、これまで以上に機能・充実するよう、活用のあり方等について、今一度検討したい。 ●秋田大学や秋田県立図書館と連携した研修会等を企画・運営することによって、より広く深い視点で、学校や市の取組について考えてみるができる。 ●各研修会参加者の肯定的評価が、いずれも目標値を上回っており、研修内容の充実ぶりがうかがえる。今後とも、参加者が「参加してよかった」と思えるような研修となるような企画・運営に努めたい。
--	--

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備
方針・目標	1 子どもたちの安全を守るための能力の育成や学校安全の徹底を推進します。 2 学校施設・設備の計画的な整備や小規模小学校の在り方の検討などに取り組みます。 3 経済的理由により就学困難と認められる児童・生徒の保護者等に対する支援を一層充実させ、子どもたちが安全・安心に過ごせる良好な教育環境をつくりまします。
事業・取組名	1 いじめ等の課題の対応 2 学校安全の推進 3 小規模小学校の在り方についての検討 4 就学援助の周知徹底や、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用促進
目標値	1 いじめ等の課題の解決を図るために、関係機関との連携を図ります。 2 学校生活における児童生徒の事故発生ゼロを目指し、点検・指導等を実施します。 3 小規模小学校の在り方については、地域との合意形成を図ることができるよう慎重に進めます。 4 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の周知を徹底し、さらなる利用の促進を図ります。
前年度の意見と対応	■小規模小学校の在り方に関しては、地域住民の理解を得ながら、慎重に進めていきたい。統合がやむを得ない場合には、そのメリットが大きくなるようにするとともに、通学等のデメリットを小さくし、学校が地域全体の核となるような取組を工夫していただきたい。 ⇒保護者や地域住民との合意形成を丁寧に進めてまいります。 ■奨学金事業を活用しながら、地域に貴重な人材が戻ってくるよう努めていただきたい。 ⇒新たに奨学金返還助成制度を検討します。 ■奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業については、引き続き事業の周知に努め、利用推進を図りたい。 ⇒市広報や新聞等で事業を周知し、利用促進を図っていきます。
事務事業の実績	1 いじめ等の課題の解決を図るための関係機関との連携強化 ①心の教室相談員の配置 小学校12校中5校に5名、中学校7校中全校に6名配置した。 ②適応指導教室「はまなす広場」の設置（不登校児童生徒の個別指導） 登校に向け、「風の子電話」との連携を強化した。 ③「風の子電話」の設置（電話や来所による教育相談） 学校や教育研究所、適応指導教室等、他機関との連携を図った。 ④児童生徒支援アドバイザーの活用 「風の子電話」に寄せられた相談を把握するとともに、各学校における問題等に応じてすぐに学校を訪問し、連携して対策を考えた。 2 学校安全の推進 ①教育活動における安全指導 学校訪問等で学校安全に関する指導助言を行った。

	<p>②各学校の実態に応じた安全点検等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して通学路点検と協議を行い、通学路の改善を図った。 ・スクールガードリーダー養成研修会を開催し、研修を深めた。 <p>③学校給食における食の安全の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育デー（毎月19日）に地場産物を多く使用した献立を提供した。 ・アレルギーの児童生徒を把握し、代替給食を提供した。 ・異物等が給食に入り込まないように、衛生管理面の徹底を図った。 <p>3 小規模小学校の在り方についての検討 朴瀬小、竹生小、崇徳小、鶴形小、常盤小を対象として地域懇談会を開催して「能代市小規模小学校の在り方に関する基本方針」を説明し、統合に向けての意見を伺った。</p> <p>4 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進</p> <p>①就学援助 …29年3月末で要保護 59人、準要保護 747人、認定割合は22.3%で、県内でも高い水準となっている。</p> <p>②奨学金貸付事業…採用者 28年度4人（27年度9人）</p> <p>③ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業…採用者28年度11人（27年度20人）</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>1 いじめ等の課題の解決を図るための関係機関との連携強化 それぞれの立場からいじめ等の課題解決に取り組み、連携を図ることで情報の共有やケース会議等、即時対応がとられた。</p> <p>2 学校安全の推進 関係機関と連携し、通学路の安全点検を合同で実施し、専門家の視点から児童生徒の安全面を考慮した改善を進めることができた。</p> <p>3 小規模小学校の在り方についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域懇談会では、統合年度の目標を31年4月とするが調整できるものとして説明し、率直な意見を聞くことができた。 ・地域アンケート結果では、統合を望む声が過半数の学校が多かったが、統合と存続がほぼ同数の学校もある。 <p>4 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進</p> <p>①就学援助 …認定割合は22%前後で推移している。</p> <p>②奨学金貸付事業…応募者が減少傾向にある。</p> <p>③ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業 …応募者が減少傾向にある。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>1 いじめ等の課題の解決を図るための関係機関との連携強化 いじめ等の未然防止、早期発見、即時対応、早期解決ができるよう、各関係機関との連携強化を図っていく。</p> <p>2 学校安全の推進 学校、地域、保護者、関係機関との連携を密にし、多くの目で児童生徒を見守る体制づくりを推進し、事故防止に努めていく。</p> <p>3 小規模小学校の在り方についての検討 小規模小学校の在り方について基本方針を周知し、地域懇談会を再度開催して</p>

	<p>統合年度や統合に向けた課題や要望について話し合い、合意形成を図っていく。</p> <p>4 就学援助、奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業の利用推進</p> <p>①就学援助…引き続き、利用推進を図る。</p> <p>②奨学金貸付事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業… 利用推進に向けて取り組むと同時に、今後のあり方について検討を行う。</p>
<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>○学校統廃合については引き続き地域の声を聞きながら、慎重に進めていただきたい。</p> <p>○奨学金の応募者が減少している理由を明らかにするため、受給者へのアンケートなど、調査を行い、応募しやすくなるような工夫をお願いしたい。 (いじめについては、1-②で扱われているので、そちらに統合してもいいように思う。) (1-②にある防災教育を、この1-⑤に持ってきた方がよいほうに思う。)</p> <p>●小規模小学校の在り方についての検討では、メリット、デメリットを提示しながら、保護者や地域住民の思いや考えを大事にした進め方となっている。今後とも「将来ある子どもたちのために何が必要か」に立ち返りながら、保護者や地域住民が不安に思っていることについて、丁寧に対応し合意形成を図りたい。</p> <p>●関係機関と連携して通学路の点検を行い、専門家の視点から見直しと改善を図る取組を、今後も続けていってほしい。</p> <p>●就学援助、奨学金貸与事業、ふるさと人材育成・定住促進奨学金事業については、引き続き、市の広報等を活用して事業の周知に努め、利用促進を図りたい。</p>

基本目標	1 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施策項目	⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備
方針・目標	学校施設・設備の計画的な整備や小規模小学校の在り方の検討などに取り組みます。
事業・取組名	1 学校施設の耐震化の推進 2 学校施設の老朽化対策等の推進
目標値	1 耐震改修工事は、30年度までにすべての学校で実施します。 2 老朽化対策については、能代市公共施設等総合管理計画を踏まえた整備計画を策定し、順次実施することとしますが、安全・安心に重大な影響が見込まれるものについては、早期対応を図ります。
前年度の意見と対応	■改修予定となっている学校施設については、計画的に工事を進めてほしい。 ⇒今後も改修予定の学校施設については、引き続き計画的に工事を進めてまいります。
事務事業の実績	1 学校施設の耐震化の推進 非構造部材耐震改修工事（体育館の照明器具、バスケットゴール等） …淳城西小、淳城南小、能代第二中、能代南中 【29年度予定分を前倒し】第五小、向能代小、崇徳小、能代東中 2 学校施設の老朽化対策等の推進 ①整備計画の策定 築年数を基準とした整備の方向性に基づき改修を実施する。また、整備計画は、国の動向を注視しながら、32年度を目標に策定することとした。 ②通常時の調査・点検等 建築士による定期調査、法定・任意点検、職員による随時巡回等により状況を把握し、優先順位を定めて対応した。 ③教育環境の向上 全校の職員室等へ網戸設置、竹生小、朴瀬小、能代南中に洋式トイレを増設した。また、29年度以降、保健室への空調設備設置や老朽化、洋式トイレが不足している9校のトイレの改修を年次計画により整備を行うこととした。
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] 1 学校施設の耐震化の推進 ・29年度予算で工事を予定していた第五小ほか3校について、国の追加事業を活用し28年度に前倒しで予算計上した。 ・28年度末時点で、改修が必要な16校のうち8校が改修済みとなっている。 2 学校施設の老朽化対策等の推進 ・29年度以後の整備計画に向けて方向性を定めることができた。 ・各種の法定点検や調査結果等に基づき、緊急を要するものについては概ね必要な整備を行うことができた。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 学校施設の耐震化の推進 国の追加事業等を活用した事業の前倒しも視野に、早期の改修を進める。 2 学校施設の老朽化対策等の推進

	<p>今後、大規模な改修時期を迎える校舎等が増加することから、財源の確保が課題となる。</p>
<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>○耐震化、老朽化への対策は、学校統廃合等の計画とも関わってくるため難しい側面があるが、地域の理解を得ることと、財政上の負担を軽減することの両面を調整して進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震改修工事が予定されている学校については、国の追加事業の前倒しも検討しながら、工事を進めてほしい。 ●洋式トイレや空調設備については、年次計画に基づいて整備を進めてほしい。

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進
施策項目	① 学習の成果を地域に生かす取組の推進
方針・目標	市民の学習意欲を高められるよう学習環境の整備とともに、学びの成果を地域に生かすことができるよう生涯学習諸施策の充実を図ります。
事業・取組名	生涯学習推進事業
目標値	市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」が、過去3年間の平均値との比較で同等あるいは上回ります。
前年度の意見と対応	<p>■より適切な目標値の設定検討 ⇒27年度の目標値は、市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」30%を目指すこととしていましたが、その結果だけで評価することは難しいため、28年度については、過去3年間の平均値との比較で判断することにしました。なお、今後、事業に見合った目標値とするよう見直しを検討していきます。</p> <p>■人材の活用・育成、新規人材の計画的かつ積極的な掘り起こし ⇒放課後子ども教室等の活動を通して人材の活用に努め、また、社会教育施設等ボランティアの育成講座を開催するなど、新規人材の掘り起こしに努めています。</p> <p>■出前講座のPR活動の推進と周知拡大 ⇒主に新規講座のPRを新聞に取り上げてもらうなど、PRに努めています。</p> <p>■学んだ知識や特技を地区活動に発揮できるような仕組みの構築 ⇒研修会や講座の終了後、学んだ知識や特技を地区活動等で発揮することができるよう、受講者へ呼びかけ意識づけを図っています。</p>
事務事業の実績	<p>1 生涯学習推進体制 (1) 生涯学習推進本部（本部長－市長、本部員－部長等） (2) 生涯学習推進協議会（12人） (3) 生涯学習奨励員（26人） (4) 社会教育指導員（1人）</p> <p>2 情報提供 (1) 生涯学習関連事業の作成（生涯学習推進協議会委員等へ配布） (2) 広報のしるへの「生涯学習のしる」掲載（年2回） (3) ホームページによる情報提供（随時） (4) 地元新聞による情報提供</p> <p>3 学習環境の整備 ※()は27年度実績 出前講座 講座件数 75件 (76件) 利用件数 104団体 (117団体) 受講者延べ 4,985人 (4,255人)</p> <p>4 人材の活用・育成 (1) 生涯学習奨励員の活動促進 ア 放課後子ども教室での講師（おかしづくり、木工等） イ マナブゥ市での交流（昔あそび、手芸等） ウ 小学生による職場見学の引率</p>

	<p>(2) 生涯学習ボランティア等の活用 ア 正課クラブ（湊城西小・家庭科クラブ） イ 総合的な学習（鶴形小・接客を学ぶ）</p> <p>(3) 社会教育施設等ボランティアの育成 子ども館ボランティア（参加6人）</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」 →H28 15.8%、過去3年間の平均値16.8%（H27 16.3%、H26 17.4%、H25 16.6%）</p> <p>②第2次能代市社会教育振興中期計画に基づく実施事業数 → 92項目（H27 87項目）</p> <p>③生涯学習ボランティア登録者数 → 55人（H27 53人）</p> <p>④出前講座受講者数 →延べ4,985人（H27 4,255人）</p> <p>⑤生涯学習奨励員が研修で学んだ成果を放課後子ども教室において子ども達に教えるなど、学んだことを生かす取組がなされた。</p> <p>⑥28年度も、婦人会によって子ども達へ、お菓子づくりや踊りの伝承が行われた。少子高齢化が進む中、双方にとってよい効果をもたらしている。</p> <p>⑦鶴形小学校において、そば祭りに向けて、市内の専門家より接客技術の指導を受けることができた。おもてなしの心を学ぶことができる意義深い内容であった。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①「いつでも、どこでも、だれでも」学べる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民意識調査や講座終了後のアンケート結果を参考とし、市民の学習ニーズや地域課題を把握しながら、それに対応した学習機会の提供に努める。 広報、ホームページ、新聞等の活用により、講座情報の周知拡大を図り、学べる環境づくりに努める。 <p>②学習を通した生きがいくつくりと、人と地域をつなぐ仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだ知識や特技を地区活動等で発揮することができるよう、研修会等で意識づけを図るとともに、発表・交流の場の提供に努め、学習を通した生きがいくつくりを支援する。 放課後子ども教室等の活動を通して、学習者と学校・家庭・地域をつなげるコーディネーターの育成を図り、人と地域をつなぐ仕組みづくりをすすめる。
学識経験者の意見	<p>○婦人会など、地域の団体とタイアップした活動をもっと増やしてもいいように思う。自治会、児童委員・民生委員などと、また、行政の他の部局と社会教育・生涯学習部局とが日常的な連携を持ち、協議する場を作ることが考えられる。（個人的には「婦人会」という名称をそろそろ改めた方がよいと思うが。）</p> <p>●市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」は、目標値には達していないものの、生涯学習奨励員が研修で学んだ成果を放課後子ども教室において教えるなど、学んだことを生かす取組が徐々に広がっている。</p> <p>●第2次能代市社会教育振興中期計画に基づく実施事業数が92項目、生涯学習ボ</p>

	<p>ランティア登録者数が 55 人と、前年度よりもそれぞれ増加している。</p> <p>●出前講座受講者数が延べ 4,985 人と、前年度よりもかなり増えている。「広報のしろ」やホームページによる情報提供に加え、新規講座について地元新聞に取り上げてもらったことにより、周知が図れたのではないかと。</p>
--	---

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																																																																																																	
施策項目	② 市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実																																																																																																	
方針・目標	各種の講座を企画・運営し、少子高齢化や価値観の多様化等に対応した学習機会の提供に努めます。																																																																																																	
事業・取組名	公民館活動事業 勤労青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業																																																																																																	
目標値	講座数及び参加者数の過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ります。																																																																																																	
前年度の意見と対応	<p>■ニーズの把握等の改善 ⇒アンケート項目を検討し、的確に利用者のニーズを調査し、講座等企画の際に参考としました。</p> <p>■開設講座の内容や時間帯等の検討 ⇒アンケート等から抽出した利用者のニーズを、講座内容に反映させるよう努めました。</p> <p>■指定管理者との緊密な連携と中央公民館と地区公民館との情報交換の場の確保 ⇒指定管理者との月例打ち合わせ及び公民館長会議の開催により、情報交換の場の確保に努めました。</p>																																																																																																	
事務事業の実績	<p>1 中央公民館開設講座・事業数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>35講座</td> <td>278回</td> <td>12,692人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>35講座</td> <td>189回</td> <td>10,742人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>35講座</td> <td>186回</td> <td>11,006人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>36講座</td> <td>205回</td> <td>10,435人</td> </tr> <tr> <td>H25～27平均</td> <td>35講座</td> <td>193回</td> <td>10,728人</td> </tr> <tr> <td>3ヵ年平均との比較</td> <td>±0講座</td> <td>+85回</td> <td>+1,964人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 中央公民館・地区公民館等開催講座内訳（数値は延べ数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>おもな事業内容</th> <th>対象</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">家庭教育 (幼児教育)</td> <td>親子体験活動</td> <td>年中・年長児と保護者</td> <td>7</td> <td>110人</td> </tr> <tr> <td>食育体験学習</td> <td>年長児～小学生</td> <td>6</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>保護者の学習</td> <td>保護者</td> <td>6</td> <td>249人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">少年教育</td> <td>体験活動・異年齢交流</td> <td>—</td> <td>8</td> <td>348人</td> </tr> <tr> <td>体験活動(地区)</td> <td>地区小学生</td> <td>11</td> <td>153人</td> </tr> <tr> <td>青年教育</td> <td>ボランティア育成</td> <td>中・高校生</td> <td>12</td> <td>127人</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">成人教育</td> <td>テーマに沿った課題学習</td> <td>一般成人</td> <td>14</td> <td>262人</td> </tr> <tr> <td>集合学習(市民学校)</td> <td>一般成人</td> <td>95</td> <td>1,308人</td> </tr> <tr> <td>働く婦人の家主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>9</td> <td>134人</td> </tr> <tr> <td>勤労青少年ホーム主催講座</td> <td>一般成人</td> <td>24</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>高齢者教育</td> <td>集合学習(寿大学)</td> <td>高齢者</td> <td>59</td> <td>2,841人</td> </tr> <tr> <td>文化活動</td> <td>公民館祭・文化祭</td> <td>—</td> <td>21</td> <td>6,796人</td> </tr> <tr> <td>コミュニティ活動</td> <td>地域づくり講演会</td> <td>一般成人</td> <td>6</td> <td>210人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合 計</td> <td>278</td> <td>12692人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	講座数	回数	参加者数	H28	35講座	278回	12,692人	H27	35講座	189回	10,742人	H26	35講座	186回	11,006人	H25	36講座	205回	10,435人	H25～27平均	35講座	193回	10,728人	3ヵ年平均との比較	±0講座	+85回	+1,964人	分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数	家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年中・年長児と保護者	7	110人	食育体験学習	年長児～小学生	6	70人	保護者の学習	保護者	6	249人	少年教育	体験活動・異年齢交流	—	8	348人	体験活動(地区)	地区小学生	11	153人	青年教育	ボランティア育成	中・高校生	12	127人	成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	14	262人	集合学習(市民学校)	一般成人	95	1,308人	働く婦人の家主催講座	一般成人	9	134人	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	24	84人	高齢者教育	集合学習(寿大学)	高齢者	59	2,841人	文化活動	公民館祭・文化祭	—	21	6,796人	コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	6	210人	合 計			278	12692人
年度	講座数	回数	参加者数																																																																																															
H28	35講座	278回	12,692人																																																																																															
H27	35講座	189回	10,742人																																																																																															
H26	35講座	186回	11,006人																																																																																															
H25	36講座	205回	10,435人																																																																																															
H25～27平均	35講座	193回	10,728人																																																																																															
3ヵ年平均との比較	±0講座	+85回	+1,964人																																																																																															
分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数																																																																																														
家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動	年中・年長児と保護者	7	110人																																																																																														
	食育体験学習	年長児～小学生	6	70人																																																																																														
	保護者の学習	保護者	6	249人																																																																																														
少年教育	体験活動・異年齢交流	—	8	348人																																																																																														
	体験活動(地区)	地区小学生	11	153人																																																																																														
青年教育	ボランティア育成	中・高校生	12	127人																																																																																														
成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	14	262人																																																																																														
	集合学習(市民学校)	一般成人	95	1,308人																																																																																														
	働く婦人の家主催講座	一般成人	9	134人																																																																																														
	勤労青少年ホーム主催講座	一般成人	24	84人																																																																																														
高齢者教育	集合学習(寿大学)	高齢者	59	2,841人																																																																																														
文化活動	公民館祭・文化祭	—	21	6,796人																																																																																														
コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	6	210人																																																																																														
合 計			278	12692人																																																																																														

点検・評価	<p> <input checked="" type="checkbox"/>目標を上回る <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る </p> <p>[説明]</p> <p>①公民館の講座等については、過去3年間の平均は193回・10,728人に対し、28年度は278回・12,692人で、回数、参加者数が大幅に増加した（「知っ得講座」「創作かるたコンテスト」等新規講座の実施、市民学校の回数、参加者数の増加等による）。</p> <p>②小学校高学年を対象とした料理教室を実施した。</p> <p>③フェイスブック等のSNSを利用し、情報提供をした。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p> <input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ） </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>1 市民のニーズにあった講座等の開設</p> <p>①アンケート等による市民ニーズの把握に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入者を対象とした新規講座「能代ビギナー相談」を実施予定。 ・「ボランティア育成講座」は対象を前年度に引き続き中学生まで拡充して実施する。 ・参加者の満足度を数値化できるような設問を引き続き設定し、更なるニーズの把握に努める。 <p>②講座へ参加しやすい時間帯の設定や、他行事と重ならないような日程調整を引き続き行っていく。</p> <p>2 多様な手法による情報提供</p> <p>広報やホームページ、SNSを活用した情報提供のほか、フリー情報誌などにも広告を掲載し幅広く情報提供を行った。引き続き様々な媒体を活用し、より広範囲に情報が届くような取組を行う。</p> <p>3 指定管理者等との連携</p> <p>①引き続き指定管理者との月例打ち合わせを行い、情報交換を密にする。</p> <p>②中央公民館・地区館の事業担当者間の情報交換の場として公民館長会議を年3回実施する。</p>
学識経験者の意見	<p>○引き続き、情報発信、情報交換、ニーズの把握に努めていただきたい。</p> <p>●中央公民館の開設講座回数及び参加者数については、過去3年間の平均を大幅に上回った。アンケート等によって利用者のニーズを把握し、魅力ある講座の開設に結び付けたことが、大きな要因と考える。</p> <p>●「ボランティア育成講座」の対象を中学生まで拡充して実施したり、小学校高学年を対象とした料理教室を開催したりするなど、講座開設に工夫がみられる。</p> <p>●今後とも、指定管理者との連携を密にするとともに、中央公民館と地区公民館の事業担当者間の情報交換の場を確保して欲しい。</p>

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																																																																												
施策項目	③ 学習を通じた生きがいがづくり、仲間づくりの支援																																																																												
方針・目標	1 自主学習グループ等の自主的な活動を支援し、学習成果の発表の場及び交流の場の確保・提供に努めます。 2 高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応えます。																																																																												
事業・取組名	公民館活動事業 青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業																																																																												
目標値	1 自主学習グループ・勤労青少年ホーム利用者連絡協議会・働く婦人の家利用グループ登録団体数が過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ります。 2 寿大学の参加者数が、過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ります。																																																																												
前年度の意見と対応	■数値の低下の度合いを少なくするための方策の検討 ⇒講座等終了後に自主学習グループ結成への働きかけを行いました。 ■自主学習グループ等への支援のあり方の検討（指定管理者との連携） ⇒自主学習グループ認定要項を作成し、公民館各窓口でもグループ登録に関する相談に対応できるようにしました。																																																																												
事務事業の実績	<p>1 自主学習グループ登録団体数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">自主学習グループ合計 (①+②)</th> <th colspan="2">①自主学習グループ</th> <th colspan="2">②働く婦人の家利用グループ</th> </tr> <tr> <th>団体数</th> <th>人数</th> <th>団体数</th> <th>人数</th> <th>団体数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>293団体</td> <td>3,980人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>294団体</td> <td>4,056人</td> <td>231団体</td> <td>3,467人</td> <td>63団体</td> <td>589人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>303団体</td> <td>4,125人</td> <td>239団体</td> <td>3,523人</td> <td>64団体</td> <td>602人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>311団体</td> <td>4,369人</td> <td>247団体</td> <td>3,736人</td> <td>64団体</td> <td>633人</td> </tr> <tr> <td>H25～27平均</td> <td>302団体</td> <td>4,183人</td> <td>239団体</td> <td>3,575人</td> <td>43団体</td> <td>608人</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>△9団体</td> <td>△203人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※H28年度から自主学習グループと働く婦人の家利用グループを統合</p> <p>2 勤労青少年ホーム利用者連絡協議会登録者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用グループ数</th> <th>登録人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>10団体</td> <td>51人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>11団体</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>11団体</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>12団体</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>H25～27平均</td> <td>11団体</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td>平均との比較</td> <td>△1団体</td> <td>△14人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	自主学習グループ合計 (①+②)		①自主学習グループ		②働く婦人の家利用グループ		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	H28	293団体	3,980人					H27	294団体	4,056人	231団体	3,467人	63団体	589人	H26	303団体	4,125人	239団体	3,523人	64団体	602人	H25	311団体	4,369人	247団体	3,736人	64団体	633人	H25～27平均	302団体	4,183人	239団体	3,575人	43団体	608人	比較	△9団体	△203人					年度	利用グループ数	登録人数	H28	10団体	51人	H27	11団体	54人	H26	11団体	71人	H25	12団体	71人	H25～27平均	11団体	65人	平均との比較	△1団体	△14人
年度	自主学習グループ合計 (①+②)		①自主学習グループ		②働く婦人の家利用グループ																																																																								
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数																																																																							
H28	293団体	3,980人																																																																											
H27	294団体	4,056人	231団体	3,467人	63団体	589人																																																																							
H26	303団体	4,125人	239団体	3,523人	64団体	602人																																																																							
H25	311団体	4,369人	247団体	3,736人	64団体	633人																																																																							
H25～27平均	302団体	4,183人	239団体	3,575人	43団体	608人																																																																							
比較	△9団体	△203人																																																																											
年度	利用グループ数	登録人数																																																																											
H28	10団体	51人																																																																											
H27	11団体	54人																																																																											
H26	11団体	71人																																																																											
H25	12団体	71人																																																																											
H25～27平均	11団体	65人																																																																											
平均との比較	△1団体	△14人																																																																											

	<p>3 寿大学参加者数</p> <table border="1" data-bbox="464 208 1129 539"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>59回</td> <td>2,841人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>57回</td> <td>2,803人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>56回</td> <td>2,672人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>59回</td> <td>3,044人</td> </tr> <tr> <td>H25～27平均</td> <td>57回</td> <td>2,840人</td> </tr> <tr> <td>3カ年平均との比較</td> <td>2回</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	回数	参加者数	H28	59回	2,841人	H27	57回	2,803人	H26	56回	2,672人	H25	59回	3,044人	H25～27平均	57回	2,840人	3カ年平均との比較	2回	1人
年度	回数	参加者数																				
H28	59回	2,841人																				
H27	57回	2,803人																				
H26	56回	2,672人																				
H25	59回	3,044人																				
H25～27平均	57回	2,840人																				
3カ年平均との比較	2回	1人																				
<p>点検・評価</p>	<p> <input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る </p> <p>[説明]</p> <p>①自主学習グループ等の登録団体については、団体数、登録人数とも減少傾向である。28年度は新規団体が多かったものの、解散等による影響がそれを上回っており、達成率は団体数97%・人数95.1%となっている。(事務の効率化のため28年度から自主学習グループと働く婦人の家登録グループを一本化して認定・登録している)</p> <p>②寿大学参加者数は、3カ年平均とほぼ同数となっており目標を達成している。</p>																					
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他 () </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>引き続き講座等終了後に自主学習グループ結成を呼びかけるなどして、継続した学びを奨励していく。</p>																					
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○自主学習グループの登録団体数、人数の減少はいたしかたないと思われる。引き続き、減少幅を抑えるための工夫をお願いしたい。</p> <p>●自主学習グループ等については、登録団体数及び登録者数ともに目標値を下回ったが、講座終了後に自主学習グループ結成への働きかけを行うなどの成果として、数値の低下の度合いが、最小限に抑えられている。</p> <p>●寿大学の回数及び参加者数は、ほぼ目標値と同等である。今後とも、高齢者が喜んで参加し、楽しく取り組めるような活動内容を企画してほしい。</p>																					

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進
施策項目	④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実
方針・目標	1 指定管理者と連携を図ります。 2 計画的な設備の修繕を行います。
事業・取組名	公民館管理運営事業 勤労青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業
目標値	指定管理者との打ち合わせを、毎月実施します。
前年度の意見と対応	<p>■施設・設備の改修・修繕等における計画的な整備 ⇒施設・設備の状態を把握し、年次計画を立てた上で、実施計画により修繕を進めました。</p> <p>■二ツ井公民館及び二ツ井分館の管理運営へのノウハウの反映 ⇒公民館長会議での意見交換のほか、定例打ち合わせでも情報を提供しました。</p>
事務事業の実績	<p>1 指定管理者との情報交換 これまで同様、月一回の打ち合わせを実施した。</p> <p>2 施設・設備改修</p> <p>ア ニツ井公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道切替 1,512千円 ・講堂玄関補修 2,700千円 ・トイレ改修 5,130千円 ・浄化槽用制御盤付ブロワーボックス交換 2,265千円 ・地下タンク切替等 1,782千円 <p>イ 文化会館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受水槽取替工事 20,635千円 ・自動火災報知設備更新工事 13,154千円 ・高圧遮断機取替工事 16,559千円
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①指定管理者の更新（中央公民館等4館）と、新規導入（二ツ井公民館・二ツ井分館）を行った。</p> <p>②指定管理者との月例打ち合わせで、生涯学習の推進と利用者の利便性向上に向けた協議を行った。</p> <p>③施設や設備の老朽化に伴い改修箇所が多くなり、費用がかさんでいる。財源確保の課題もあり、今後は速やかに対応できない場合も多くなると予想される。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①指定管理者等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き指定管理者との月例打ち合わせを行うほか、メール等も活用して随時情報交換を行う。 ・二ツ井公民館及び二ツ井分館に指定管理者制度を導入した（H29.4.1～、5年間）。 ・中央公民館・地区館の情報交換の場として公民館長会議を設けた。

	<p>②施設・設備の修繕</p> <p>引き続き指定管理者と連携しながら施設・設備の状態を把握し、計画を立てて修繕や改修を実施するよう努める。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○財政状況が厳しい折であるが、計画的に改修等を進めていただきたい。</p> <p>●施設・設備の改修・修繕等が計画的に行われている。建物の老朽化に伴って、今後は改修箇所も多くなると思われるが、不備が見つかったら早めに対応するようお願いしたい。</p> <p>●今後とも、指定管理者との打ち合わせを毎月実施し、生涯学習の推進と利用者の利便性の向上に向けた協議を続けていってほしい。</p>

基本目標	2 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																																																			
施策項目	④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実																																																			
方針・目標	市民の学習要求に応えるため、必要な資料を広く収集・整理・提供するとともに、生涯学習や生活に役立ち、利用しやすい図書館となるよう努めます。 また、読書活動を推進するため、学校や地域との連携を強化するとともに、各種講座、行事などの事業を展開し、利用者拡大に努めます。																																																			
事業・取組名	図書館管理運営事業																																																			
目標値	快適な読書環境を提供し、より多くの住民に利用されるよう、毎年実施する利用者満足度調査の評価ポイント5段階中4ポイント以上を目指します。																																																			
前年度の意見と対応	■一人でも多くの方が本に親しみ、読書を楽しめるような図書館運営 ⇒利用者ニーズを把握しながら、読書振興に繋がる取組を進めるとともに、他図書館や関係機関、指定管理者と連携し運営しています。																																																			
事務事業の実績	<p>1 図書館資料の充実</p> <p>(1) 蔵書数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度/項目</th> <th>一般書</th> <th>郷土</th> <th>児童書</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>121,417 冊</td> <td>15,100 冊</td> <td>35,732 冊</td> <td>172,249 冊</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>122,678 冊</td> <td>14,693 冊</td> <td>35,869 冊</td> <td>173,240 冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 特色ある蔵書づくり ※()は 27 年度実績 「木に関するコーナー」 H28 1,754 冊 (1,722 冊) 「宇宙コーナー」 H28 720 冊 (705 冊) 「家読(うちどく)コーナー」 家読ノートに掲載のお薦めの本等を展示</p> <p>(3) 雑誌スポンサー制度 (H26 年 4 月導入) H28 スポンサー数 16 件 / 雑誌 21 誌 (H27 スポンサー数 15 件 / 雑誌 18 誌)</p> <p>2 サービス活動の充実と利用の拡大</p> <p>(1) 貸出冊数、来館者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度/項目</th> <th>個人貸出</th> <th>団体貸出</th> <th>合計</th> <th>来館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>156,783 冊</td> <td>11,502 冊</td> <td>168,285 冊</td> <td>109,719 人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>162,258 冊</td> <td>10,108 冊</td> <td>172,366 冊</td> <td>114,806 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※子どもの読書週間(4月)、読書週間(10月)に、貸出冊数の無制限キャンペーンを実施した。</p> <p>(2) その他統計</p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>(H28)</th> <th>(H27)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア レファレンス・サービス(参考調査)、読書案内</td> <td>9,015 件</td> <td>7,549 件</td> </tr> <tr> <td>イ リクエスト(予約)サービス</td> <td>6,272 冊</td> <td>6,678 冊</td> </tr> <tr> <td>ウ 障がい者サービス(家庭配本)</td> <td>133 冊</td> <td>155 冊</td> </tr> <tr> <td>エ 県立図書館等公共図書館との相互協力</td> <td>借受 649 冊</td> <td>749 冊</td> </tr> <tr> <td></td> <td>貸出 450 冊</td> <td>629 冊</td> </tr> <tr> <td>オ ホームページの整備と管理</td> <td>アクセス数 15,621 件</td> <td>24,766 件</td> </tr> </tbody> </table>	年度/項目	一般書	郷土	児童書	合計	H28	121,417 冊	15,100 冊	35,732 冊	172,249 冊	H27	122,678 冊	14,693 冊	35,869 冊	173,240 冊	年度/項目	個人貸出	団体貸出	合計	来館者数	H28	156,783 冊	11,502 冊	168,285 冊	109,719 人	H27	162,258 冊	10,108 冊	172,366 冊	114,806 人		(H28)	(H27)	ア レファレンス・サービス(参考調査)、読書案内	9,015 件	7,549 件	イ リクエスト(予約)サービス	6,272 冊	6,678 冊	ウ 障がい者サービス(家庭配本)	133 冊	155 冊	エ 県立図書館等公共図書館との相互協力	借受 649 冊	749 冊		貸出 450 冊	629 冊	オ ホームページの整備と管理	アクセス数 15,621 件	24,766 件
年度/項目	一般書	郷土	児童書	合計																																																
H28	121,417 冊	15,100 冊	35,732 冊	172,249 冊																																																
H27	122,678 冊	14,693 冊	35,869 冊	173,240 冊																																																
年度/項目	個人貸出	団体貸出	合計	来館者数																																																
H28	156,783 冊	11,502 冊	168,285 冊	109,719 人																																																
H27	162,258 冊	10,108 冊	172,366 冊	114,806 人																																																
	(H28)	(H27)																																																		
ア レファレンス・サービス(参考調査)、読書案内	9,015 件	7,549 件																																																		
イ リクエスト(予約)サービス	6,272 冊	6,678 冊																																																		
ウ 障がい者サービス(家庭配本)	133 冊	155 冊																																																		
エ 県立図書館等公共図書館との相互協力	借受 649 冊	749 冊																																																		
	貸出 450 冊	629 冊																																																		
オ ホームページの整備と管理	アクセス数 15,621 件	24,766 件																																																		

(3) 市や社会教育施設等との連携

- ア 「子育て・家庭教育に関する本」の貸出
保育所向け・小学校向け・中学校向けの本3セット(1セット15冊)を、
希望のあった施設へ設置 (生涯学習・スポーツ振興課)
- イ 男女共同参画関連図書の展示、貸出 (6月/市民活力推進課)
- ウ 育児関係本や絵本の配布 (毎月3歳児検診/健康づくり課)
- エ 「どの本読もうかな」(読み聞かせおすすめ絵本の紹介)の配布
(年4回/健康づくり課)
- オ 木に関する加工品の展示 (年5回/高度木材加工研究所)

(4) 学習機会の提供^{*1}

年度/項目	講座等の開催		人形劇、書評合戦等の開催	
H28	9回	231人	8回	373人
H27	4回	77人	12回	543人

(5) テーマ展示の充実等

- 特色ある月替わりのテーマ展示やおみくじ等を実施。
- ア としょかんおみくじ (大人用213枚 / 子ども用87枚を配布)
- イ 子育て支援関連コーナーの設置
- ウ としょかん福袋 (年末 大人用13袋 / 子ども用20袋)
- エ おやこわいわいルーム (H28 129人 / H27 102人)
- オ 家読コーナーでの展示・貸出

(6) 開館時間延長及び開館日拡大の継続

- ・開館を午前9時から、閉館を午後7時とし、開館時間の2時間延長を継続した。
- ・月曜日以外の祝日を開館とし、開館日の拡大を継続した。

3 子どもの読書活動の推進

(1) 読み聞かせ活動の充実及び学校との連携・支援^{*2}

年度/項目	おはなし会		出前おはなし会	
H28	28回	411人	2施設	36人
H27	28回	547人	4施設	67人

(読み聞かせはボランティアが担当)

- ・一日図書館員 (小学校5年生) 2人
- ・学校図書館担当者研修会 (ポップの作り方) 35人
- ・学校への図書配本を実施 16回 / 913冊

(2) ボランティアとの連携

^{*1} 2 (4) 学習機会の提供、^{*2} 3 (1) 読み聞かせ活動の充実及び学校との連携・支援に記載

	<p>4 指定管理者との連携による利用者サービスの向上 利用者満足度調査：</p> <p>調査月日 10月8日(土)～11日(火) 調査方法 来館者無作為抽出 調査対象 利用者 300人 回収者 293人 回収者内訳 性別 男116人、女164人、無回答13人 年齢 10歳代6人、20歳代9人、30歳代40人、 40歳代56人、50歳代38人、60歳代90人、 70歳代42人、無回答12人</p> <p>【全体的にみた、図書館に対する満足度】</p> <table border="1" data-bbox="434 568 1399 696"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答者</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>普通</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>279人</td> <td>128人</td> <td>89人</td> <td>57人</td> <td>5人</td> <td>0人</td> <td>4.22</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>280人</td> <td>113人</td> <td>109人</td> <td>51人</td> <td>7人</td> <td>0人</td> <td>4.17</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価は5段階 「満足」5 「やや満足」4 「普通」3 「やや不満」2 「不満」1</p>		回答者	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	満足度	H28	279人	128人	89人	57人	5人	0人	4.22	H27	280人	113人	109人	51人	7人	0人	4.17
	回答者	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	満足度																		
H28	279人	128人	89人	57人	5人	0人	4.22																		
H27	280人	113人	109人	51人	7人	0人	4.17																		
<p>点検・評価</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①図書館利用者満足度調査において、全体的にみた図書館に対する満足度（5点満点）は、28年度は4.22で、前年度よりわずかながら上昇している。 ②27年度から、指定管理者制度を導入し、株式会社図書館流通センターが指定管理者となった。開館時間の延長や新規事業を実施しているが、利用者及び利用冊数は前年度と比較すると、若干減少している。 ③木材高度加工研究所との連携展示や商店街ビブリオバトル等、他の施設や団体と連携した取組を進めた。</p>																								
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①図書資料の充実 市民の学習要求に応えられるよう図書資料の充実を図る。また、特色ある蔵書づくりを推進する。 ②関係機関との連携 他の公共図書館や図書館ボランティア等との連携を図り、学習機会の提供やサービスの充実に努める。 ③指定管理者との連携 今後も引き続き指定管理者と連携し、施設の円滑な維持管理、運営を図りながら事業を推進していく。</p>																								
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○様々な取組が行われ、満足度も上昇していることから、引き続き利用拡大、満足度の向上に取り組んでいただきたい。</p> <p>●図書館利用者満足度調査において、図書館に対する満足度が4.22となり、前年度よりも若干上昇した。市民の読書に関するニーズに応えられるような図書資料を準備するなどの取組の成果と思う。</p> <p>●子どもの読書週間（4月）や読書週間（10月）に、貸出冊数の無制限キャンペーンを実施するなど、利用者にとってわくわくするような取組が行われている。</p> <p>●ボランティアによる読み聞かせ活動や、一日図書館員の任命、学校への図書配本の実施などにより、子どもの読書活動の推進に努めている。</p> <p>●今後も指定管理者と連携しながら、市民の読書活動と学習要求に応じてほしい。</p>																								

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進
方針・目標	自分が住む地域への理解を深め、「ふるさと能代」に愛着をもった子どもたちを育成するため、能代の地域全体を学びの場とした体験活動を中心に事業を推進します。
事業・取組名	のしろDEマナブゥ事業
目標値	マナブゥ講座の実施回数を、前年度との比較で同等あるいは上回ります。
前年度の意見と対応	■子どもを対象としたマナブゥ事業のアンケートの実施について ⇒28年度に市内全小学校児童を対象としたアンケートを実施し、児童の意見や事業の認知度を調査しました。アンケートの結果を踏まえ、今後の事業展開に生かしていきます。
事務事業の実績	(1) 講座の実施回数及び参加人数 54 講座 721 人参加 (H27: 49 講座 576 人参加) (2) マナブゥ・イベントの実施 ・ミニマナブゥ市の開催 (5/29 開催) ・マナブゥ市の開催 (10/1 開催 延べ 534 人参加、H27: 411 人) ・ふるさと学習交流会の開催 (学校教育課との共催) 郷土芸能発表 1 団体 (3) マナブゥ・カードの配布 1,518 枚配布 (4) のしろDEマナブゥ事業推進会議の開催 (年 2 回) (5) 【新規】親子でのしろの宝さがし事業の実施
点検・評価	■目標を上回る □ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る [説明] ①マナブゥ講座の実施回数 54 講座 (H27: 49 講座) ②市内全小学校児童を対象としたマナブゥ事業のアンケート結果 【認知度】 マナブゥカードを知っている→43.2% マナブゥ市を知っている →21.5% 親子でのしろの宝さがしを知っている→19.2% 【やってみたい体験活動】 ・昔あそび ・料理 ・絵手紙 ・木工作 ・将棋 ・釣り ・囲碁 ・カヌー ・こま ・けん玉 ・科学実験 等 ③親子でのしろの宝さがしの周知事業として「のしろの宝をさがしに行こう！」を市主催で2回開催。事業の取り掛かりとして、まずは子ども達を対象としたが、好評であった。本来の親子での取組への参加意欲を喚起できたと思われる。

<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 () </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①ニーズに応じた事業展開 アンケート結果に基づき、子ども達がやってみたい体験活動を各講座へ取り入れ、子ども達がより進んで取り組めるよう事業を推進する。</p> <p>②イベントを通じた事業周知 子どもが参加するイベント等を通して、子ども達に分かりやすいカードの使用方法やマナブゥ市、親子でのしろの宝さがし事業等の周知に努める。</p> <p>③マナブゥカードの使用拡充の検討 マナブゥカードが使える機会が年2回のため、今後、新たなカードの使用方法や使用機会の拡充を検討する。</p> <p>④民間団体等との連携 事業の趣旨にあった民間団体（青年会議所等）の講座等と連携し、カードがもらえる機会を増やすとともに、地域全体への理解を広げていく。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○様々な取組が行われ成果を挙げている。学校とも連携して、教育課程との関連性も追求していただきたい。</p> <p>●マナブゥ講座の実施回数が目標値を上回る 54 講座で、参加人数も 721 人と前年度よりも大幅に増えた。市内の全児童を対象としてアンケートを実施し、子どもたちがやってみたいと思っている体験活動を講座に取り入れたことが、大きな要因と思う。</p> <p>●「マナブゥカードやマナブゥ市を知っているか」のアンケート結果からは、認知度がまだまだ低いと言える。引き続き、マナブゥ事業の周知に努めたい。</p> <p>●新規事業の「親子でのしろの宝さがし事業」を継続してほしい。</p>

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																																																
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進																																																
方針・目標	学校・家庭・地域・行政等が協働で、体験活動や見守りなど、子どもを育てる環境づくりに取り組みます。																																																
事業・取組名	放課後子ども教室推進事業																																																
目標値	週末体験活動の実施回数を各校、年5回を目指します。																																																
前年度の意見と対応	<p>■安全安心に配慮し、地域の人材を活用した体験活動の充実 ⇒魅力ある活動となるよう安全管理員、コーディネーターと連携し実施しています。</p> <p>■放課後児童クラブやスポ少等との連携の在り方 ⇒向能代小において、放課後児童クラブと連携し、平日に囲碁教室を実施しました。今後も計画的に実施します。</p>																																																
事務事業の実績	<p>1 参加者数等の推移 (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">28年度</th> <th colspan="3">27年度</th> </tr> <tr> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> <th>学校数</th> <th>日数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日図書室等開放</td> <td>7</td> <td>1,324</td> <td>25,807</td> <td>7</td> <td>1,349</td> <td>26,667</td> </tr> <tr> <td>土曜日体育館開放</td> <td>5</td> <td>104</td> <td>1,524</td> <td>5</td> <td>134</td> <td>2,015</td> </tr> <tr> <td>夏休みプール開放</td> <td>12</td> <td>197</td> <td>8,856</td> <td>12</td> <td>200</td> <td>9,265</td> </tr> <tr> <td>週末体験活動</td> <td>12</td> <td>54</td> <td>1,059</td> <td>12</td> <td>55</td> <td>1,123</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,679</td> <td>37,246</td> <td></td> <td>1,738</td> <td>39,070</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 週末体験活動の主な活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まきずしづくり (淳城西小) ・料理は科学 (第四小) ・親子でカヌー (向能代小) ・ポリ袋で炊飯 (竹生小) ・ヨサコイ (鶴形小) ・ツリーケーキ (常盤小) ・茶道入門 (淳城南小) ・新米でおにぎり (第五小) ・天神工房・木工作 (朴瀬小) ・おもしろかかし (崇徳小) ・水ロケット (浅内小) ・新米でたんぼ・だまこ鍋 (二ツ井小) <p>実施回数 6回(1校)、5回(6校)、4回(3校)、3回(2校)</p> <p>3 放課後子ども総合プランに基づく取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・向能代小 囲碁教室 (9回、延べ160人うち児童クラブ63人) <p>4 放課後児童クラブ未設置校における平日の体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹生小 読み聞かせ (8回、延べ89人) 		28年度			27年度			学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数	平日図書室等開放	7	1,324	25,807	7	1,349	26,667	土曜日体育館開放	5	104	1,524	5	134	2,015	夏休みプール開放	12	197	8,856	12	200	9,265	週末体験活動	12	54	1,059	12	55	1,123	合計		1,679	37,246		1,738	39,070
	28年度			27年度																																													
	学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数																																											
平日図書室等開放	7	1,324	25,807	7	1,349	26,667																																											
土曜日体育館開放	5	104	1,524	5	134	2,015																																											
夏休みプール開放	12	197	8,856	12	200	9,265																																											
週末体験活動	12	54	1,059	12	55	1,123																																											
合計		1,679	37,246		1,738	39,070																																											

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ①週末体験活動の実施回数 延べ54回（平均4.5回） ②講師や安全管理員は地域の方々にお願ひし、地域で子ども達を育てるという意識の醸成を図っている。 ③ふるさと能代を学ぶ体験だけではなく、子ども達が楽しみながら学べるメニューを提供している。 ④スポ少や習い事のため参加できない児童がいるが、実施日を週末に拘らず、開校記念日に実施するなど、参加しやすいようにした。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ） [具体的な課題及び取組] ①学校・家庭・地域の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所づくり、体験活動を通じた心豊かで健やかに育まれる環境づくりのため、事業を継続。 ・地域の方々と連携し、地域の宝として子どもを育てる意識の醸成を図る。 ・アンケート等により、子ども達が知りたい、学びたいメニューの充実を図る。 ②放課後児童クラブとの連携強化 放課後子ども総合プランにおける取組を継続。放課後児童クラブと連携した平日の放課後子ども教室を実施する。 H29 実施予定ー 児童クラブ設置校（向能代小、第五小） " 未設置校（浅内小、竹生小）
学識経験者の意見	○少子化の中、参加者数の減少はいたしかたないところと思われる。引き続き、魅力的な活動の実施に努めていただきたい。 ●週末体験活動の実施回数の平均は、目標値を下回る4.5回であったが、「まきずしづくり」「新米でおにぎり」「親子でカヌー」「おもしろかかし」など、各学校において、ユニークな活動が行われた。 ●放課後児童クラブやスポ少等と連携した活動については、今後とも計画的に実施したい。

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進																
方針・目標	関係機関・団体と連携しボランティアや世代間交流の提供、社会環境づくりなどを行うことで、能代市の将来を担う青少年の自立・成長を促します。																
事業・取組名	青少年健全育成事業																
目標値	社会参加活動促進事業「みんなで Action!」の参加者数が、過去3年間の平均値との比較で同等あるいは上回ります。																
前年度の意見と対応	<p>■ 市民会議等の会員の高齢化の対応 ⇒ 市民会議においても新たな会員の確保に努めているほか、市内において「のしろユースカレッジ」等の若者団体も生まれている。市の青少年健全育成のため、既存団体と新規関連団体との連携も視野に入れ、若返りを働きかけていくよう努めてまいります。</p> <p>■ ニート、引きこもり支援 ⇒ 引きこもり対策は、本人や家族だけではなく、社会全体で取り組むべき課題であり、今後、支援していく仕組みを構築していくことが重要であると考えています。</p>																
事務事業の実績	<p>1 青少年健全育成事業</p> <p>(1) 「平成28年度能代市青少年健全育成活動方針」策定 広報への掲載、各自治会長への配布、関係団体への周知に努めた。</p> <p>(2) 社会参加活動促進事業「みんなで Action!」を青少年育成能代市民会議や連合婦人会とタイアップして実施した。(家庭教育支援事業との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動(5/17) 中学生 23人 ・非行防止街頭キャンペーン(7/4、11/16) 中学生 3人、高校生 15人 ・交通安全うちわ作戦(8/6) 中学生 5人、高校生 2人 ・交通安全呼びかけ運動(8/10) 中学生 8人 ・子育て、高齢者世帯訪問(9/28) 高校生 3人 <p>計6回</p> <p>(3) 事故防止の看板設置(河川、沼等) 132箇所</p> <p>2 能代市成人式の開催</p> <p>(1) 新成人で組織する実行委員会方式で開催</p> <p>(2) 記念品は能代らしいものとし、秋田杉製印鑑スタンドとした。</p> <p>(3) 出席者の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象者</th> <th>出席者</th> <th>出席率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>H7.4.2～H8.4.1生</td> <td>499人</td> <td>396人 79.4%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>H6.4.2～H7.4.1生</td> <td>587人</td> <td>491人 83.6%</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>H5.4.2～H6.4.1生</td> <td>521人</td> <td>429人 82.3%</td> </tr> </tbody> </table>		対象者	出席者	出席率	H28	H7.4.2～H8.4.1生	499人	396人 79.4%	H27	H6.4.2～H7.4.1生	587人	491人 83.6%	H26	H5.4.2～H6.4.1生	521人	429人 82.3%
	対象者	出席者	出席率														
H28	H7.4.2～H8.4.1生	499人	396人 79.4%														
H27	H6.4.2～H7.4.1生	587人	491人 83.6%														
H26	H5.4.2～H6.4.1生	521人	429人 82.3%														

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ①社会参加活動促進事業「みんなでAction!」の参加者数 延べ59人 過去3年間の平均値 62人 (H27:65人、H26:54人、H25:68人) ②青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成活動方針(単年度方針)を定め関係機関・団体に協力を依頼した。 ③非行防止街頭キャンペーンには、中学生から高校生の参加があり、より広範囲な交流を図ることができた。 ④成人式は、新成人により組織される実行委員(8人)により、企画・運営を行った。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他() [具体的な課題及び取組] ①関係機関との連携 ・引き続き関係機関や団体と連携しながら、青少年健全育成活動に努める。 ・能代市民会議等の会員の高齢化が進んでいるため、市内の若者団体「のしろユースカレッジ」等と連携し、非行防止キャンペーン等の活動への参加を働きかけ、互いの活動が充実するよう支援していく。 ②成人式実行委員会の充実 新成人で構成される実行委員会を通し、大人の仲間入りをするという自覚を持つことを促し、また、新成人の企画運営が仲間づくりのきっかけとなるよう支援する。
学識経験者の意見	○市民会議構成員の確保に向けては、市内企業・団体等と連携して取り組み、若者の参加を呼びかけていただきたい。 ●平成28年度能代市青少年健全育成活動方針を策定し、広報に掲載したり各自治会長に配付したりして、関係団体への周知を図っている。 ●社会参加活動促進事業「みんなでAction!」では、中学生や高校生を巻き込みながら活動している。 ●今後はこれまで以上に、能代市民会議と市内の若者団体「のしろユースカレッジ」等とが連携しながら、非行防止キャンペーン等に取り組んでいければと思う。

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進					
施策項目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進					
方針・目標	市民の興味や関心を高めるような、施設を利用したイベント・講座を提供し、子どもから大人まで幅広く気軽に交流できる子ども館を目指します。					
事業・取組名	子ども館活動事業					
目標値	1 来館者数 36,000 人を目指します。 2 講座受講者の評価が「満足」である割合 90%以上を目指します。					
前年度の意見と対応	<p>■小学校の理科担当者との連携 ⇒理科の拠点センターとして、小学校理科担当者研修会を実施するなど、理科担当者の情報交換の場の提供に努めます。</p> <p>■各種講座やイベントの企画と積極的な情報発信 ⇒各種ロケット講座、ロボットを用いたプログラミング講座等、利用者のニーズに応じた講座の開催や体験学習コーナーの常設を実施します。 また、ホームページへの掲載やメール配信、報道機関との連携等、更なる情報発信に努めます。</p> <p>■プラネタリウムのデジタル化への更新や体験型学習コーナーの設置 ⇒プラネタリウム老朽化に伴うデジタル化への更新、1階展示スペースの充実のため、体験型学習コーナーの移設設置を推進します。</p>					
事務事業の実績	1 来館者数の推移					
	区分	28年度	27年度	26年度		
	総来館者数	45,863人	45,843人	36,242人		
	プラネタリウム観覧者数	6,256人	5,484人	4,713人		
	事業活動参加者数	110件、6,691人	139件、6,401人	160件、9,584人		
	プラネタリウム団体観覧者数	55件、1,834人	60件、2,067人	63件、1,587人		
	2 講座満足度アンケート【5段階評価で平均 4.80 (4.85)】					
	項目	満 足	やや満足	ふ つ う	やや不満足	不 満 足
	人数(人)	373(360)	41(40)	18(10)	3(0)	0(0)
	割合(%)	85.8(87.8)	9.4(9.8)	4.1(2.4)	0.7(0)	0(0)
	※()は 27 年度数値					
	3 イベント・講座等実績 ※()は 27 年度実績					
	(1) 主なイベント・講座					
	・かがくあそび	12件	530人	(12件)	466人	
	・「はやぶさの日」イベント	2件	107人	(4件)	55人	
	・コズミックカレッジ	1件	40人	(1件)	15人	
	・各種ロケット教室	12件	144人	(24件)	297人	
	・ロボット・プログラミング講座	12件	124人	(22件)	167人	
	(2) 特別イベント					
	・のしろ銀河フェスティバル		898人	(368人)		
	(内容) 水ロケット製作・打ち上げ体験		52人	(80人)		
	プラネタリウム無料上映	6回	248人	(6回)	142人	
	【新】紙筒ロケット		116人			

	<p align="center">【新】フィルムケースロケット 132人 2階宇宙館のボランティア等による説明</p> <p>(3) 宇宙科学への関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙検定の実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>上級</th> <th>中級</th> <th>初級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>9人(5人)</td> <td>20人(14人)</td> <td>32人(42人)</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>4人(2人)</td> <td>6人(6人)</td> <td>20人(27人)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども館ウォークラリーの実施 88人(60人) ・2階展示室ガイドの実施 27件 391人(41件 678人) <p>(4) 理科の拠点センターとしての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科担当者研修会 4回(12回) 		上級	中級	初級	参加者数	9人(5人)	20人(14人)	32人(42人)	合格者数	4人(2人)	6人(6人)	20人(27人)
	上級	中級	初級										
参加者数	9人(5人)	20人(14人)	32人(42人)										
合格者数	4人(2人)	6人(6人)	20人(27人)										
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①「宇宙のまちづくり」に則した取組を行った。 ②情報発信により、市外からの来館者が増加した。 ③各種講座・イベント等の開催、隣接する公園への大型遊具設置の相乗効果により、来館者数が増加した。 ④モデルロケット製作やプログラミング講座は複数回の受講者が増えてきた。 ⑤北海道からの修学旅行を始め、市内外からの小・中学生の見学や天体関連の授業が行われ、プラネタリウム、ロケットの打ち上げ体験が好評であった。また、12月から常設展示した知育玩具を活用した体験学習コーナーが好評で、低年齢の子どもと保護者のリピーターが増加している。</p>												
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①宇宙教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種ロケットの製作・打ち上げ講習会(子ども館主催) ・宇宙少年団ノシロ分団との協力 ・宇宙教育の更なる情報発信(JAXA動画ニュース等の放映) ・モデルロケット指導者ライセンス取得講習会の開催(秋田大学と協力) <p>②小・中学校との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムを用いた天体関連の授業の実施(小学校4年生対象) ・小学校理科担当者研修会の実施(年4回実施) ・職場体験・インターンシップの受け入れ <p>③プラネタリウムの更新</p> <p>プラネタリウムの老朽化に伴い、デジタル化への更新を推進する。</p> <p>④1階展示スペースの充実</p> <p>現在1階ホールに展示している体験学習コーナーを、自然科学館の植物標本や動物剥製のスペースを縮小し、移設設置を推進する。</p> <p>⑤理科の拠点センターとしての役割</p> <p>小学校の理科担当者が気軽に授業の相談や実験器具の使い方を学ぶことができる場と情報の提供に努める。</p>												

<p>学 識 経 験 者 の 意 見</p>	<p>○様々な取組が行われ成果を挙げている。引き続き、魅力的な取組の実施に努めていただきたい。プラネタリウムのデジタル化など、財政面での支援をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総来館者数及びプラネタリウム観覧者数が、前年度よりも増えた。「かがくあそび」や「のしろ銀河フェスティバル」、新規に行った「フィルムケースロケット」などが、子どもたちの興味・関心を集めたものと思う。 ●小学校理科担当者研修会を年4回開催するなど、理科担当者の情報交換の場となっている。 ●宇宙検定では上級、中級コースに挑戦する子どもが増えている。これまでに行ってきた各種ロケットの製作や打ち上げ等の取組が、一因ではないかと考えられる。
----------------------------	--

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																																	
施策項目	② 保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援																																	
方針・目標	核家族化や少子化、産業構造の変化など、子どもや家庭を取り巻く状況が大きく変化しており、保護者に対し様々な手法で学習機会を提供し、家庭教育を支援します。																																	
事業・取組名	家庭教育支援事業																																	
目標値	保護者を対象とした家庭教育関係講座の実施回数を、前年度との比較で同等あるいは上回ります。																																	
前年度の意見と対応	<p>■家庭教育関係講座への保護者の参加者数が大きく増加している要因 ⇒1 幼稚園において参観日に行った講話の聴講者が 100 人以上だったことが大幅増の要因です。</p> <p>■次代の親向けの家庭教育関係講座の参加者数が大幅減少の分析 ⇒前年度（H26）に 1 中学校において「前向きに生きるために」と題した講話を全校生 200 人が聴講したことが翌年度（H27）に影響したものです。</p> <p>■中学生の保護者やプレ親を対象とした家庭教育の支援 ⇒プレ親（中学生）を対象とした性教育講座の実施について学校へ働きかけており、計画的に支援していきます。</p>																																	
事務事業の実績	<p>1 庁内連携 (1) 家庭教育支援事業推進会議を開催（3月） (2) 家庭教育支援事業報告書を作成し関係者に配布（4月）</p> <p>2 情報提供 (1) 家庭教育通信「Only one」を発行（3回） (2) 「ちょこっと家庭教育通信」を発行・配布（1件1種）</p> <p>3 学習機会の提供 (1) 家庭教育関係講座の実施 (件、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象</th> <th rowspan="2">講座名</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">27年度</th> </tr> <tr> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>家庭教育関係講座</td> <td>22</td> <td>492</td> <td>23</td> <td>745</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">次代の親</td> <td>家庭教育関係講座</td> <td>5</td> <td>496</td> <td>1</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>社会参加活動推進事業「みんなでAction!」(命の大切さ事業含む)</td> <td>18</td> <td>中高生 112 受入団体 556</td> <td>11</td> <td>中高生 92 受入団体 326</td> </tr> <tr> <td>祖父母</td> <td>じじばばの孫かて講座</td> <td>1</td> <td>延べ 38</td> <td>1</td> <td>延べ 14</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 「家庭教育に関する・家読におすすめの本」の貸出 (H28) 利用者 110人 貸出冊数 173冊 (H27) 利用者 60人 貸出冊数 153冊</p> <p>4 人材の育成 祖父母等への学習機会の提供 「じじばばの孫かて講座」の実施（参加者延べ 38人）</p>	対象	講座名	28年度		27年度		講座数	参加者数	講座数	参加者数	保護者	家庭教育関係講座	22	492	23	745	次代の親	家庭教育関係講座	5	496	1	55	社会参加活動推進事業「みんなでAction!」(命の大切さ事業含む)	18	中高生 112 受入団体 556	11	中高生 92 受入団体 326	祖父母	じじばばの孫かて講座	1	延べ 38	1	延べ 14
対象	講座名			28年度		27年度																												
		講座数	参加者数	講座数	参加者数																													
保護者	家庭教育関係講座	22	492	23	745																													
次代の親	家庭教育関係講座	5	496	1	55																													
	社会参加活動推進事業「みんなでAction!」(命の大切さ事業含む)	18	中高生 112 受入団体 556	11	中高生 92 受入団体 326																													
祖父母	じじばばの孫かて講座	1	延べ 38	1	延べ 14																													

点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ①保護者を対象とした家庭教育関係講座の実施回数 22回 (H27:23回) ②次代の親を対象とした家庭教育関係講座の参加者増は、小中学校での取組が4校増えたためである。 ③社会参加活動推進事業の参加者増は、子育て支援センター主催の「命の大切さ事業」サンデーすくすくひろば事業への参加機会が増えたためである。 ④祖父母等を対象とした「じじばばの孫かて講座」は、対象を子育てに関心のある方も対象としたことも影響し、参加者増につながったと思われる。 ⑤家庭教育関係講座のアンケート結果は、「とても参考になった」等の評価が多い。 ⑥家庭教育通信の認知度は非常に高い。特に子育て家庭でよく読まれている。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 () [具体的な課題及び取組] ①中学生の保護者を対象とする学習機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育に関する本・家読におすすめの本」の貸出を継続する。 ・保護者へ直接情報が届く周知方法を検討する。 ②プレ親（次代の親となる中学生・高校生）を対象とした講座等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さ事業（赤ちゃんとのふれあい）を継続する。 ・プレ親（中学生）を対象とした性教育講座、命の大切さ講座の開催校を計画的に増やし、全生徒が受講できるようにする。
学識経験者の意見	○様々な取組が行われており成果を挙げている。中学生全体が受講可能となることを期待したい。 ●家庭教育通信「Only one」は、これまで同様、子育て家庭のみならず多くの市民に読まれている。 ●プレ親（中学生）を対象とした命の大切さを取り上げた性教育講座は、ほとんどすべての中学校で行われている。今後も講座の充実に向けて、各中学校に対する支援をお願いしたい。

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施策項目	③ 読書活動の推進
方針・目標	能代市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするため、子どもの発達段階に応じた取組を推進します。
事業・取組名	読書活動推進事業
目標値	子ども読書活動推進計画における指標である「不読率（1カ月に1冊も本を読まない子どもの割合）の低下」を目指します。（県学習状況調査による不読率を県平均より下回るようにします。） ◆参考指標：小学2年生「本を読むことが好きか」 小学6年生「家や図書館で本を読む割合」 中学3年生「好きな本・忘れられない本はあるか」 高校3年生「あなたにとって本は必要か」 ※小学6年生は全国学力学習状況調査結果、それ以外は読書実態調査結果より
前年度の意見と対応	■小中学校、教職員との連携促進 ⇒学校訪問や会議の際に事業説明を継続しながら、今後も学校や教職員との連携を図ります。 ■計画の目標（不読率）の分かりやすい設定及び掲示 ⇒県平均との併記など、分かりやすい表記に努めます。 ■家読の取組や市民の読書意欲を喚起する事業の実施 ⇒子ども達が「能代っこ家読ノート」を活用して家読に取り組むことにより、家庭への読書の浸透を図っています。また、広報のしるへ「わたしのおすすめの一冊」を掲載することにより、市民全体の読書意欲を喚起しています。
事務事業の実績	「能代市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組を行った。 1 啓発活動 (1) 読書活動推進関係講座の実施 ・情報リテラシー講座（11/26実施 参加者 6人） ・「家族で読書」講座（1/14実施 参加者 8人） ・図書館見学ツアー（1/11実施 参加者 17人） (2) 能代版読書記録ノート「能代っ子家読ノート」の作成・配布 ・小1～4年生用 1,700部、小5～中学生用 2,300部を作成 ・家読ノート：全小学校児童・中学校生徒へ配布（6月上旬） ・ノートのデータをPDF化し、市のホームページに掲載 ・うちどくポップ大賞の実施（応募者 30人） (3) 秋田杉製ブックスタンド作成・配布 ・小学4年生を対象に、秋田杉製ブックスタンドキットを配布（416セット） ・図工の授業で組み立てを行ってもらった。 (4) うちどくDAY（毎月第3日曜日）のポスターを作成し、小中学校及び関係機関へ配布した。 2 環境整備 (1) 「わたしのおすすめの一冊」図書紹介（広報のしる掲載） 28年度は学校関係に紹介をお願いし、毎月10日号へ掲載した。（全11回）

	(2) 指定管理者等と連携した図書館の管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者と連携した事業の開催や定期的な打ち合わせを実施することで、図書館の運営・取組実施への連携・協力を努めた。 ・教育研究所と連携しながら、学校図書支援員研修会へ参加し助言等を行った。 																								
点検・評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] 不読率は、すべての学年が県平均を下回った。 【平成28年度県学習状況調査 質問紙結果 P. 4の表の再掲】 <table border="1" data-bbox="459 577 1212 842"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>能代市</th> <th>県平均</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>1.0%</td> <td>2.5%</td> <td>-1.5P</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>2.7%</td> <td>3.8%</td> <td>-1.1P</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>0.8%</td> <td>3.8%</td> <td>-3.0P</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>6.0%</td> <td>6.0%</td> <td>-0.0P</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>4.8%</td> <td>8.2%</td> <td>-3.4P</td> </tr> </tbody> </table> 参考指標（H27 調査結果）： <ul style="list-style-type: none"> 小学2年生「本を読むことが好き・どちらかといえば好き」97.6% 小学6年生「家や図書館で本を読む割合」83.3% 中学3年生「好きな本・忘れられない本がある」56.1% 高校3年生「自分にとって本は必要だ」64% 	学 年	能代市	県平均	比較	小学4年	1.0%	2.5%	-1.5P	小学5年	2.7%	3.8%	-1.1P	小学6年	0.8%	3.8%	-3.0P	中学1年	6.0%	6.0%	-0.0P	中学2年	4.8%	8.2%	-3.4P
学 年	能代市	県平均	比較																						
小学4年	1.0%	2.5%	-1.5P																						
小学5年	2.7%	3.8%	-1.1P																						
小学6年	0.8%	3.8%	-3.0P																						
中学1年	6.0%	6.0%	-0.0P																						
中学2年	4.8%	8.2%	-3.4P																						
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ） [具体的な課題及び取組] 子ども読書活動推進計画に基づき、学校・家庭・地域の連携を図りながら施策を実施していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・家読ノートの利用が高まるよう、家庭で実践しやすい取組を実施する。 ・学年が上がるにつれて、読書が身近でなくなる傾向が見られる。中学生・高校生を対象とする取組を増やしていく。 																								
学識経験者の意見	<input type="radio"/> 成果を挙げているので、引き続き、学校・学校図書館、図書館との連携のもとに事業を進めていただきたい。 <input checked="" type="radio"/> 県学習状況調査において、すべての学年で不読率が県平均を下回り、目標を達成することができた。学校や家庭と連携して取り組んできた成果と思う。 <input checked="" type="radio"/> 「わたしのおすすめの一冊」の広報のしろへの掲載は、市民の読書意欲を喚起するうえで効果的である。紹介者を教員やPTA会員に広げることによって、より広範囲な分野からの紹介となっている。 <input checked="" type="radio"/> 今後とも、図書館の指定管理者や学校と連携しながら、各種の取組を進めてほしい。																								

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施策項目	④地域活動に必要な学習機会の提供
方針・目標	子どもの体験活動等に関わるコーディネーター等を対象に学習機会及び情報交換の場を提供し、資質向上を図り体験活動の推進・充実を図ります。
事業・取組名	コーディネーター等研修事業
目標値	放課後子ども教室コーディネーター会議の全員参加を目指します
前年度の意見と対応	<p>■コーディネーターの力量向上、体験活動の充実 ⇒年度初めにコーディネーター会議を開催し、事業開始前に役割を再確認するとともに、情報交換により幅広い視野で体験活動を実施できるよう努めています。</p> <p>■学校、教職員との連携 ⇒4月に学校を訪問し、事業の趣旨を説明、学校の協力を得ながら事業を推進しています。</p> <p>■普通救命講習会の継続 ⇒プール監視に従事する安全管理員へは、毎年必ず救命講習の受講を義務付けています。</p>
事務事業の実績	<p>1 放課後子ども教室コーディネーター会議 (4/28) 参加者 11人 (12人対象) 内容 コーディネーターの役割や情報交換</p> <p>2 普通救命講習会 (7/2 から 3回) 参加者 30名 内容 プール開放や体育館開放等に伴う安全管理員の任務及び救命法について学ぶ</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明] ①年度初めの会議は、各地域で活動しているコーディネーターが一堂に会し、前年度の活動内容を振り返るとともに、新年度の活動や役割を確認し合うことができる有意義な会議であった。 放課後子ども教室コーディネーター会議の参加者 11人 (12人対象) 参加率 92%</p> <p>②普通救命講習会は、夏休みのプール開放前に実施。監視にあたる安全管理員全員が受講し、事故を未然に防ぐ対策を講じている。</p>

<p>課題及び 今後の取組の 方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①研修・講習内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々のコーディネータ力を尊重しつつ、豊富な社会経験を持つ外部人材との協力も得ながらスキルアップを図る。 ・県主催の研修への参加を勧奨し、市外の取組も参考に幅広い視野での活動ができるよう促す。 ・他の体験活動への参加等によりコーディネーター同士の連携強化を図る。 <p>②学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター等による学校訪問により学校との連携を密にし、より充実した活動とする。
<p>学識経験者 の意見</p>	<p>○成果を挙げているので、引き続き、学校と連携して事業を進めていただきたい。</p> <p>●放課後子ども教室コーディネーターの力量向上と、体験活動の充実を図るために、今後ともコーディネーター会議を開催し、情報交換を行えるようにしてほしい。</p> <p>●放課後子ども教室コーディネーターと学校との連携の窓口として、情報の収集に努めたい。</p>

基本目標	3 学校・家庭・地域・行政等が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進						
施策項目	⑤ 食育を通じた健全な子どもの育成						
方針・目標	(1) 毎日3食きちんと食べよう (2) 健康的でバランスのよい食事をしよう (3) 食の安全・安心に関する知識を身につけよう (4) 地元食材を通じて能代を知り、旬のものを食べよう (5) 計画的な食育推進運動を進めよう						
事業・取組名	1 学校給食事業 2 食について理解を深める体験活動事業						
目標値	1 毎日、朝食を食べる子どもの割合 100%を目指します。 2 学校給食における地場農産物の使用割合を維持します。						
前年度の意見と対応	■時々朝食を食べない子どもへの対応について ⇒調査等により子どもの実態を把握し、きめ細かな対応に努めるとともに、朝食の大切さや栄養のバランス等について学べる機会の拡充を図ります。 ■給食だよりの配布の仕方等について ⇒家庭で話題にできる内容の工夫に努めます。						
事務事業の実績	1 毎日3食きちんと食べよう ・給食献立表を通して、朝ごはんの効果等の情報提供を行った。(36回) ・栄養教諭が給食時間に訪問し、食事に関して情報提供を行った。(10回) ・「早寝・早起き、朝ご飯」を推進した。 2 健康的でバランスのよい食事をしよう ・栄養教諭による、食事と健康に関する食育授業を行った。(35回) ・給食だよりの毎月発行により、家庭への情報提供を行った。(36回) 3 食の安全・安心に関する知識を身につけよう ・給食保護者試食会を開催し、食育に関する講話、資料提供を行った。(11回) 4 地元食材を通じて能代を知り、旬のものを食べよう ・放課後子ども教室において食に関する講座を開催した。(15回、延べ239人) ・子ども夏休み・冬休み体験(二ツ井公民館)において食に関する講座を開催した。(2回、延べ51人) ・給食食育デー(毎月19日)において地場産物を使った献立を提供した。(36回) 5 計画的な食育推進運動を進めよう ・食育全体計画の作成 ・食育指導に関する教諭等への指導・助言						
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る						
	[説明] ①毎日、朝食を食べる子どもの割合【全国学力・学習状況調査】 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>27年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.4%</td> <td>96.6%</td> <td>△0.2ポイント</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">27年度より0.2ポイント下がったものの、ほとんどの児童生徒が朝食を</p>	28年度	27年度	比較	96.4%	96.6%	△0.2ポイント
28年度	27年度	比較					
96.4%	96.6%	△0.2ポイント					

	<p>摂っていて、良好な食生活である。</p> <p>②学校給食における地場農産物の使用割合【学校給食物資使用調査】</p> <table border="1" data-bbox="481 280 1107 365"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>27年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36.3%</td> <td>43.9%</td> <td>△7.6ポイント</td> </tr> </tbody> </table> <p>天候不良により地場産によるものが確保できなかったことにより、使用割合が減少した。</p>	28年度	27年度	比較	36.3%	43.9%	△7.6ポイント
28年度	27年度	比較					
36.3%	43.9%	△7.6ポイント					
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>①毎日、朝食を食べる子どもの割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による栄養指導で、朝食の大切さや栄養のバランス等について学ぶことで、朝食を摂る児童生徒が100%になるよう働きかけていく。 ・食の原点は家庭での食事であることから、保護者へのレシピ配付や親子で参加する教室の開催、給食試食会での栄養士の講話など、家庭で話題にできる講座の実施を推進していく。 <p>②学校給食における地場農産物の使用割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産の安定した量が確保できないため、栄養士と情報を共有しながら、地場産野菜の収穫時期に合わせた献立により使用率拡大に努めていく。 ・JAや産地直売所、農業振興課からの情報を得ながら、どのような連携ができるか検討していく。 						
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○成果は現れにくいものの、様々な取組が行われており、引き続き食事の充実、食育の充実に努めていただきたい。JA等との連携も積極的に進めていただきたい。朝食を食べているかだけでなく、何を誰と食べているのか、テレビ等をみながらなのか、無言なのか、楽しく食べているのかなども時に調査していただきたい。</p> <p>●毎日、朝食を食べる子どもの割合は、前年度とほぼ同等である。引き続き、朝食を摂ることの意義について、様々な機会を捉えて子どもたちに話して行ってほしい。</p> <p>●栄養教諭による食育授業や給食だよりの発行等を通して、食についての理解を深めて行ってほしい。</p>						

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	① 伝統芸能の継承
方針・目標	郷土の伝統芸能を市民共有の財産として、その保存・継承に取り組みます。
事業・取組名	民俗芸能振興事業
目標値	能代市民俗芸能連合会の構成団体数19を目指します。
前年度の意見と対応	<p>■学校での少子化と、指導者の高齢化への対応の検討（連合会との連携） ⇒連合会の後継者育成交渉会をとおし、効果的な対応について情報交換を行いました。</p> <p>■構成団体数の維持に向けた効果的な支援 ⇒用具整備など、構成団体への支援を継続しています。</p> <p>■合同発表会や子ども民俗芸能発表会の継続開催 ⇒継続して発表会の開催を行っています。</p>
事務事業の実績	<p>1 ①合同発表会（能代地区） 日時：10/23 会場：能代市総合体育館（産業フェア会場） 出演団体数：5団体</p> <p>②合同発表会（二ツ井地区） 日時：10/23 会場：きみまち阪公園 出演団体数：6団体</p> <p>③連合会10周年記念合同発表会 日時：7/31 会場：市文化会館 出演団体数：9団体</p> <p>2 後継者育成事業 各保存会で実施 単位保存会数：18団体</p> <p>3 用具整備補助 小掛郷土芸能保存会の用具修繕事業への補助 内容：駒踊り用駒頭修理（2騎） 補助額：200,000円</p> <p>4 子ども民俗芸能発表会 日時：11/6 会場：二ツ井伝承ホール 発表：民俗芸能5団体 伝統芸能1団体（日本舞踊）</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年に会員数の減少と会員の高齢化により、活動の継続が困難となったため1団体が脱会し、現在の連合会構成団体数は18となっている。 ・連合会の合同発表会や子ども民俗芸能発表会での出演団体数は、昨年並みを維持している。また、連合会の周年記念発表会を実施することができた。

<p>課題及び 今後の取組の 方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>会員数の減少と会員の高齢化は各保存会共通の課題であるが、即効的な対応は困難であり、連合会と連携し活動を支援するとともに、用具整備支援など単位保存会への支援も継続していく。</p>
<p>学識経験者 の意見</p>	<p>○高齢化、人口減少の影響は避けがたいが、できるだけ息長く継続していけるように取り組んでいただきたい。</p> <p>●今後とも、連合会の後継者育成交流会等を通して、各団体間で情報交換ができるようにして行ってほしい。</p> <p>●子ども民族芸能発表会への参加団体が、民族芸能と伝統芸能を合わせて6団体と多かったことは、これまでの取組の成果と思う。</p>

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	② 文化財保護事業の推進
方針・目標	郷土の文化財を市民共有の財産として、その保存、継承に取り組みます。
事業・取組名	文化財保護事業
目標値	1 文化財がき損、散逸しないよう保護に努め、現在の指定・登録文化財数を維持します。 2 市民の文化財保護意識の高揚を図るため、関係団体と連携して歴史探訪会を開催し、参加者の満足度 4.5 以上（5段階評価）を目指します
前年度の意見と対応	■文化財の探訪会の充実（保護協会との連携） ⇒文化財保護協会等との共催により、市民ニーズにあったプランニングに努めました。 ■指定文化財の確保に向けた情報収集 ⇒文化財保護協会からの情報や、県等の文化財調査の結果を活用しました。
事務事業の実績	1 指定・登録文化財数 99件 2 歴史探訪会 ・7/2「鶴形地区の文化財」参加者 40人 ・11/12「由利本荘市の文化財」参加者 24人 3 関係団体の活動支援 ・秋田県文化財保護協会能代支部 ・のしろ檜山周辺歴史ガイドの会 ・二ツ井町文化財保護協会
点検・評価	■目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る 歴史探訪会については、秋田県文化財保護協会能代支部と共催し、市民のニーズにあったテーマを設定できた（参加者の満足度評価は、5段階で4.8であった）。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ） [具体的な課題及び取組] 引き続き指定文化財の市外流出の防止を図るため、文化財所有者の情報収集に努めるとともに、市外所有者には市への寄託を依頼する。歴史探訪会についても引き続き参加者の満足できるテーマを設定し、市民の文化財保護意識の高揚を図っていく。
学識経験者の意見	○文化財の保護に向けて着実に取り組まれているので、市民の文化財保護意識の高揚のため、引き続き工夫を重ねていただきたい。 ●歴史探訪会での参加者の満足度評価が 4.8 と高かった。「鶴形地区の文化財」を取り上げるなど、市民のニーズに合ったテーマを設定したことが要因と思う。 ●今後とも、文化財所有者についての情報収集に努め、指定文化財の確保につなげてほしい。

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	② 文化財保護事業の推進
方針・目標	国指定史跡檜山安東氏城館跡を保護管理するとともに歴史学習の場として整備活用します。
事業・取組名	檜山安東氏城館跡保存管理事業
目標値	1 檜山城跡の整備の指針となる環境整備計画に基づき、整備・発掘調査を実施します。 2 史跡の管理のための除草、伐木を実施します。
前年度の意見と対応	■情報発信の具体策の実行 ⇒市広報及びホームページにより調査等の開始、現地説明会等の実施を周知するほか、地元新聞への情報提供により報道を依頼し、情報発信に努めました。
事務事業の実績	1 檜山城跡の発掘調査の実施 調査期間：6/13～9/14（40日間） 2 史跡の除草を実施 檜山城跡：遺構箇所7ha×2回、遊歩道2回 大館跡：遺構箇所7ha×1回 3 支障木の伐採を実施 檜山城跡：254本
点検・評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] ・史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画を策定するとともに、檜山城跡の発掘調査を計画どおり実施できた。 ・除草については、檜山城跡の遺構箇所除草面積を27年度1ha増やすことができたが、28年度はさらに1ha増やすことができ、見学者の利便性を高めることができた。
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他（ ） [具体的な課題及び取組] ①整備及び発掘調査体制の充実に努める。 調査整備委員会の開催及び助言者からの指導を随時実施する。 ②史跡への関心を高めるための情報発信のあり方の検討 様々な手法によるタイムリーな情報提供に努める。
学識経験者の意見	○文化財保護に向けて着実に取り組まれているので、今後も活用方策、PR方策等について検討していただきたい。 ●今後とも、檜山城跡の整備及び発掘調査を、計画どおり進めてほしい。 ●除草については、当初の遺構箇所除草面積よりも1ha増やすことができ、見学者の利便性がさらに高まったと思う。

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施策項目	② 文化財保護事業の推進
方針・目標	文化財保護法に則り、埋蔵文化財の保存に努めます。
事業・取組名	埋蔵文化財調査事業
目標値	開発行為に関わる確認調査・発掘調査を実施します。
前年度の意見と対応	<p>■調査遺跡保護について価値・意義についての説明 ⇒本発掘調査した遺跡については、調査報告書を公開しました。</p> <p>■開発業者側との緊密な連携 ⇒事業着手前と着手時に協議をし、情報共有を行いました。</p>
事務事業の実績	<p>1 本発掘調査：2件 平影野遺跡、四ツ屋台遺跡</p> <p>2 試掘（確認）調査：2件 平影野遺跡、塞ノ神遺跡</p> <p>3 試掘（分布）調査：4件 荷上場地区、東雲原地区、小掛・鬼神地区、東北電力(株)森岳線鉄塔建替</p> <p>4 立会調査：11件 鹹淵遺跡、大野台遺跡近接地、新田沢遺跡近接地、チャクシ館跡近接地、茱萸ノ木遺跡、平影野遺跡、梯ノ台遺跡近接地、梯ノ台遺跡、小友IV遺跡近接地、逆川遺跡</p>
点検・評価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明] 発掘調査の現場作業は実施できたが、整理作業を終えることができず、調査報告書の作成が終了していない。</p>
課題及び今後の取組の方向性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組] 文化財保護法に則り、埋蔵文化財保護事務を進める。未刊行の報告書についても、早期の刊行に努める。</p>
学識経験者の意見	<p>○今後とも、埋蔵文化財の適切な保護に努めていただきたい。</p> <p>●前年度よりも調査箇所が多くなっている。開発業者側と緊密な連携をとって、作業を進めてほしい。</p>

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興																																		
施策項目	③ 文化芸術の振興																																		
方針・目標	市民の文化芸術活動への支援をとおして、文化芸術の振興に取り組みます。																																		
事業・取組名	市民文化振興事業																																		
目標値	文化月間の入場者数展示部門 5,000 人、舞台部門 800 人を目指します。																																		
前年度の意見と対応	■指定管理者と連携した取組 ⇒能代市芸術文化協会と連携して文化月間を実施しました。																																		
事務事業の実績	<p>1 文化月間の設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>展示部門</th> <th>舞台部門</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>11 団体 入場者数 6,008 人</td> <td>19 団体 入場者数 847 人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>11 団体 入場者数 6,123 人</td> <td>19 団体 入場者数 748 人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>10 団体 入場者数 5,407 人</td> <td>17 団体 入場者数 795 人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>10 団体 入場者数 3,603 人</td> <td>16 団体 入場者数 760 人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>12 団体 入場者数 3,354 人</td> <td>16 団体 入場者数 863 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 芸術文化団体への支援 能代ミュージカル制作・公演費補助 能代ミュージカル・キッズ公演・練習会場使用料負担 各種助成事業や国民文化祭参加募集の周知</p> <p>3 市所蔵絵画展の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>期日</th> <th>展示テーマ</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>12/3～11</td> <td>このはなさくや～天空の花に魅せられて～</td> <td>2,197 人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>8/13～16</td> <td>能代にゆかりの日本画家展</td> <td>375 人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2/26～3/1</td> <td>能代生まれの洋画家たち</td> <td>524 人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	展示部門	舞台部門	H28	11 団体 入場者数 6,008 人	19 団体 入場者数 847 人	H27	11 団体 入場者数 6,123 人	19 団体 入場者数 748 人	H26	10 団体 入場者数 5,407 人	17 団体 入場者数 795 人	H25	10 団体 入場者数 3,603 人	16 団体 入場者数 760 人	H24	12 団体 入場者数 3,354 人	16 団体 入場者数 863 人	年度	期日	展示テーマ	入場者数	H28	12/3～11	このはなさくや～天空の花に魅せられて～	2,197 人	H27	8/13～16	能代にゆかりの日本画家展	375 人	H26	2/26～3/1	能代生まれの洋画家たち	524 人
区分	展示部門	舞台部門																																	
H28	11 団体 入場者数 6,008 人	19 団体 入場者数 847 人																																	
H27	11 団体 入場者数 6,123 人	19 団体 入場者数 748 人																																	
H26	10 団体 入場者数 5,407 人	17 団体 入場者数 795 人																																	
H25	10 団体 入場者数 3,603 人	16 団体 入場者数 760 人																																	
H24	12 団体 入場者数 3,354 人	16 団体 入場者数 863 人																																	
年度	期日	展示テーマ	入場者数																																
H28	12/3～11	このはなさくや～天空の花に魅せられて～	2,197 人																																
H27	8/13～16	能代にゆかりの日本画家展	375 人																																
H26	2/26～3/1	能代生まれの洋画家たち	524 人																																
点検・評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る [説明] 文化月間の入場者数については、展示・舞台部門とも目標を上回った。 市所蔵絵画展は、旧議事堂で新庁舎一般公開と同時開催したため、入場者が多数あった。メイン展示を行った画家・佐藤緋呂子氏も来場し、大変満足されていた。																																		
課題及び今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> その他 () [具体的な課題及び取組] 能代市芸術文化協会と連携し、市民文化月間への参加団体の維持・拡大を図る。 市所蔵絵画展は、今後は隔年で開催することとし、テーマや周知方法を工夫して多くの市民に市ゆかりの美術品を見てもらうよう努める。また、各種助成事業等について、様々な団体が利活用できるよう周知に努め、地域の文化芸術の振興につなげていく。																																		
学識経験者の意見	○高齢化の中でも入場者数など、一定のレベルが維持されており、引き続き市民芸術文化の振興、向上に向けて取り組んでいただきたい。 ●文化月間の展示部門・舞台部門の入場者数が目標値を大幅に上回った。今後とも指定管理者である能代市芸術文化協会と連携し、地域の芸術文化の振興に努めてほしい。																																		

基本目標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興				
施策項目	③ 文化芸術の振興				
方針・目標	市民の文化芸術の振興と福祉の増進を図るため、舞台芸術の上演や展示会等に広く開放し市民の文化芸術活動の奨励に努めるとともに、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供します。				
事業・取組名	文化会館主催事業				
目標値	事業数及び入場者数の過去3年間の平均値との比較で、同等あるいは上回ること。				
前年度の意見と対応	<p>■ 広報活動などの工夫（主催事業、共催事業） ⇒新聞・広報等のほか、地域情報誌等も活用して周知活動を行いました。ホームページ及びフェイスブックなど、様々な媒体での広報を工夫しました。</p> <p>■ 市民ニーズを反映した事業の展開 ⇒アンケートの実施等により市民ニーズの把握とその反映に努めました。</p>				
事務事業の実績	1 主催事業				
	No.	開催日	事業名	内容	入場者
	1	5/28	氣志團学園Ⅱ～拳の中のロックンロール	ポップス	845
	2	8/31	松竹特別公演「芝桜」	芝居	400
	3	9/18	第12回みんなで歌うコンサート	市民参加型	250
	4	10/27	DRUM TAO	和太鼓	1,099
	5	12/4	第12回クリスマスこどもコンサート	市民参加型	400
	6	1/29	千住真理子バイオリンリサイタル	クラシック	600
	7	3/5	第17回のしろクラシックコンサート	市民参加型	400
	8	3/18	中丸三千繪ソプラノリサイタル	クラシック	500
	28年度合計			8回	4,494
	25～27平均			7.6回	4,143
	平均との比較			0.4回	351
	2 ロビーコンサート（市民が参加発表し、無料で会場を提供）				
	No.	開催日	内容		入場者
	1	4/2	第89回	能代東中学校吹奏楽部	100
	2	4/10	第90回	能代西高校吹奏楽部	100
	3	4/29	第91回	びあのおコンサート	100
	4	1/15	第92回	渡辺真弓と仲間たち	100
	5	3/20	第93回	第一中学校吹奏楽部	160
6	3/26	第94回	工業高校吹奏楽部	100	
28年度合計			6回	660	
25～27平均			8回	876	
平均との比較			△2回	△216	

	<p>3 市民芸術文化祭（能代市芸術文化協会主催事業）※P.58 の表を一部再掲</p> <table border="1" data-bbox="454 235 1385 551"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>展示部門</th> <th>舞台部門</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>11 団体 入場者数 6,008 人</td> <td>19 団体 入場者数 847 人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>11 団体 入場者数 6,123 人</td> <td>19 団体 入場者数 748 人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>10 団体 入場者数 5,407 人</td> <td>17 団体 入場者数 795 人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>10 団体 入場者数 3,603 人</td> <td>16 団体 入場者数 760 人</td> </tr> <tr> <td>H25～27平均</td> <td>10 団体 入場者数 5,044 人</td> <td>17 団体 入場者数 767 人</td> </tr> <tr> <td>平均との比較</td> <td>1 団体 入場者数 964 人</td> <td>2 団体 入場者数 80 人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	展示部門	舞台部門	H28	11 団体 入場者数 6,008 人	19 団体 入場者数 847 人	H27	11 団体 入場者数 6,123 人	19 団体 入場者数 748 人	H26	10 団体 入場者数 5,407 人	17 団体 入場者数 795 人	H25	10 団体 入場者数 3,603 人	16 団体 入場者数 760 人	H25～27平均	10 団体 入場者数 5,044 人	17 団体 入場者数 767 人	平均との比較	1 団体 入場者数 964 人	2 団体 入場者数 80 人
区分	展示部門	舞台部門																				
H28	11 団体 入場者数 6,008 人	19 団体 入場者数 847 人																				
H27	11 団体 入場者数 6,123 人	19 団体 入場者数 748 人																				
H26	10 団体 入場者数 5,407 人	17 団体 入場者数 795 人																				
H25	10 団体 入場者数 3,603 人	16 団体 入場者数 760 人																				
H25～27平均	10 団体 入場者数 5,044 人	17 団体 入場者数 767 人																				
平均との比較	1 団体 入場者数 964 人	2 団体 入場者数 80 人																				
<p>点検・評価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <p>①主催事業はクラシック2公演をタイアップ事業とすることで入場料を抑えるなど工夫をした。ポップスと和太鼓がツアー公演の会場となったこともあり、総入場者数は3カ年平均に対して増となっている。</p> <p>②ロビーコンサートは、設備改修によるホール休止等の影響もあり、例年より開催数が減少した。改修による休止は今後も考えられるため、日程等工夫しながら実施をしていきたい。</p>																					
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>市民ニーズを反映した事業を展開するため、引き続き入場者に対するアンケートを実施する。</p>																					
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○高齢化の中でも入場者数など、一定のレベルが維持されており、引き続き市民芸術文化の振興、向上に向けて取り組んでいただきたい。</p> <p>●主催事業については、入場者数が過去3年間の平均値を上回り、目標を達成した。今後とも、市民ニーズに応じた事業の展開に努めてほしい。</p> <p>●ロビーコンサートは、利用団体及び個人の希望に、できるだけ応えられるよう、日程等の調整にあたってほしい。</p>																					

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	① 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
方針・目標	心身ともに健康な大人となる基礎をつくるため、学校体育と地域のスポーツ活動の充実を図り、体力の向上を図ります。
事業・取組名	1 子どもの体力向上の推進 2 小中学校の体育等に関する活動の充実 3 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実
目標値	体力の向上傾向を維持します。
前年度の意見と対応	<p>■ 県平均を下回る種目に対する低学年の体力づくり ⇒ 学校では、新体力テストの各種目における運動特性をしっかりと把握し、共通理解を深めました。 運動特性の向上につながる運動経験を、授業や休み時間の遊びの中に積極的に取り入れる工夫をしました。</p> <p>■ 子どものスポーツ参加機会の充実や、指導の適正化 ⇒ 関係団体等との連携し、指導者の資質向上のための環境整備を図りました。</p>
事務事業の実績	<p>1 子どもの体力向上の推進 関係団体と連携し運動の習慣化等に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会 スポーツ・医科学研修講座 ・総合型地域スポーツクラブ 幼児運動教室 ・市スポーツ少年団 S A Q トレーニング実技講習会 <p>2 小中学校の体育等に関する活動の充実</p> <p>① 体育・保健体育学習の充実に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト結果分析を以降の学習指導に生かしている。 ・研修会へ参加し、体育・保健体育学習の充実を図っている。 ・休み時間等を活用した運動を実施している。 ・県の指導者派遣事業等を活用し、専門的な知識や技能を学んでいる。 <p>② 中学校部活動の活性化を図るため、合同チームなどにより生徒のニーズに応じた運動部活動を推進している。</p> <p>③ 児童生徒の運動機会の拡充を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の歩行に関する調査結果を情報提供している。 ・学校訪問等で、体力の維持、向上を図るための指導や助言をしている。 <p>3 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実</p> <p>① スポーツ少年団活動の適切で円滑な運営を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織強化のための支援や選手派遣費の支援を行っている。 <p>② 子どものスポーツ参加機会の充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校に希望種目の部活動がない競技については、学校と受け皿となるスポーツ少年団等との連携・調整を図っている。 ・学校（主に小学校）と総合型地域スポーツクラブ（常盤小中学区、能代東中学区、二ツ井中学区、能代一・二中学区）との連携・調整を図っている。

点検・評価

- 目標を上回る ほぼ目標どおり 目標をやや下回る
 目標を大幅に下回る

【説明】

1 平成28年度新体力テスト平均値による県との比較

○男子

学年	県・市別	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール (ハンドボール)	持久走
単位		kg	回	cm	点	回	秒	cm	m	秒
小1	秋田県	9.55	11.93	26.53	29.19	21.58	11.52	115.30	9.30	-
	能代市	9.85	12.53	28.06	29.59	22.70	11.41	116.15	9.18	-
	比較	0.30	0.60	1.53	0.40	1.12	-0.11	0.85	-0.12	-
小2	秋田県	11.32	14.80	28.33	34.04	32.48	10.73	126.96	12.99	-
	能代市	11.32	16.27	28.41	34.88	32.13	10.60	125.89	12.91	-
	比較	0.00	1.47	0.08	0.84	-0.35	-0.13	-1.07	-0.08	-
小3	秋田県	13.05	16.70	30.15	38.16	40.54	10.15	136.30	16.96	-
	能代市	13.27	17.89	29.79	38.11	42.54	10.10	134.55	17.75	-
	比較	0.22	1.19	-0.36	-0.05	2.00	-0.05	-1.75	0.79	-
小4	秋田県	15.05	19.18	32.17	42.18	52.05	9.72	145.99	21.90	-
	能代市	15.33	20.57	31.86	41.84	52.69	9.71	141.15	21.80	-
	比較	0.28	1.39	-0.31	-0.34	0.64	-0.01	-4.84	-0.10	-
小5	秋田県	17.12	20.79	34.35	45.17	60.02	9.42	155.54	25.29	-
	能代市	17.75	20.96	34.74	43.53	61.68	9.40	153.73	24.30	-
	比較	0.63	0.17	0.39	-1.64	1.66	-0.02	-1.81	-0.99	-
小6	秋田県	20.68	22.70	36.01	48.03	68.08	8.91	167.95	29.89	-
	能代市	21.39	24.58	36.84	48.22	71.07	8.85	165.57	29.28	-
	比較	0.71	1.88	0.83	0.19	2.99	-0.06	-2.38	-0.61	-
中1	秋田県	25.87	24.29	40.76	49.11	72.86	8.55	183.10	18.92	435.28
	能代市	25.53	24.94	42.30	49.15	72.38	8.49	179.39	17.91	464.60
	比較	-0.34	0.65	1.54	0.04	-0.48	-0.06	-3.71	-1.01	29.32
中2	秋田県	31.83	28.42	45.74	53.62	90.97	7.87	202.22	24.08	375.69
	能代市	32.68	30.60	46.46	55.06	87.55	7.77	203.09	22.33	361.56
	比較	0.85	2.18	0.72	1.44	-3.42	-0.10	0.87	-1.75	-14.13
中3	秋田県	36.64	30.25	47.52	55.85	97.08	7.51	215.62	25.42	365.38
	能代市	36.46	30.34	48.99	55.87	97.59	7.54	216.46	24.62	364.19
	比較	-0.18	0.09	1.47	0.02	0.51	0.03	0.84	-0.80	-1.19

○女子

学年	県・市別	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール (ハンドボール)	持久走
単位		kg	回	cm	点	回	秒	cm	m	秒
小1	秋田県	9.03	11.94	28.74	28.60	18.47	11.68	109.48	6.29	-
	能代市	9.72	13.96	29.16	29.24	19.33	11.49	113.47	6.49	-
	比較	0.69	2.02	0.42	0.64	0.86	-0.19	3.99	0.20	-
小2	秋田県	10.83	14.57	31.47	33.42	26.33	10.88	121.45	8.49	-
	能代市	10.77	15.34	32.10	34.08	27.36	10.88	126.94	8.74	-
	比較	-0.06	0.77	0.63	0.66	1.03	0.00	5.49	0.25	-
小3	秋田県	12.31	16.32	33.66	37.62	34.59	10.35	131.42	10.89	-
	能代市	12.64	16.58	34.60	36.79	33.92	10.28	128.85	11.22	-
	比較	0.33	0.26	0.94	-0.83	-0.67	-0.07	-2.57	0.33	-
小4	秋田県	14.09	18.59	35.70	41.25	44.51	9.86	141.66	13.65	-
	能代市	14.53	22.14	37.17	43.21	48.34	9.71	143.35	14.56	-
	比較	0.44	3.55	1.47	1.96	3.83	-0.15	1.69	0.91	-
小5	秋田県	16.83	20.40	38.47	43.79	51.88	9.49	151.28	15.91	-
	能代市	16.85	21.65	39.52	43.89	54.41	9.43	151.65	16.33	-
	比較	0.02	1.25	1.05	0.10	2.53	-0.06	0.37	0.42	-
小6	秋田県	19.66	21.33	40.35	45.73	57.24	9.19	158.48	17.91	-
	能代市	20.26	22.95	42.30	46.49	59.76	9.12	157.79	19.29	-
	比較	0.60	1.62	1.95	0.76	2.52	-0.07	-0.69	1.38	-
中1	秋田県	22.51	21.61	44.57	46.39	56.47	9.03	166.73	12.62	299.81
	能代市	21.43	22.18	45.21	47.29	51.11	8.92	165.30	12.18	326.25
	比較	-1.08	0.57	0.64	0.90	-5.36	-0.11	-1.43	-0.44	26.44
中2	秋田県	24.77	24.39	47.22	47.70	61.54	8.78	172.55	13.99	278.14
	能代市	25.47	25.77	49.12	47.98	62.82	8.61	175.81	14.41	284.23
	比較	0.70	1.38	1.90	0.28	1.28	-0.17	3.26	0.42	6.09
中3	秋田県	26.11	24.93	48.69	48.23	61.65	8.70	173.88	14.68	292.01
	能代市	26.00	25.65	52.23	49.57	61.75	8.71	176.73	15.27	331.27
	比較	-0.11	0.72	3.54	1.34	0.10	0.01	2.85	0.59	39.26

【テスト結果】

○小学生

- ①学年別に見ると、小2男子、小3男女、小4男子、小5男子で県平均より低いテスト項目が多く見られる。

	<p>②男女別、テスト項目別に見ると、女子より男子の方が県平均を下回っている項目が多い。特に男子の「立ち幅とび」と「ソフトボール投げ」が県平均を下回っている。</p> <p>○中学生</p> <p>①学年別に見ると、中1男女で県平均より低いテスト項目が見られる。</p> <p>②男女別、テスト項目別に見ると、男子の「ハンドボール投げ」と女子の「持久走」がすべての学年で県平均を下回っている。「握力」も男女ともに県平均を下回っている。</p>
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>1 子どもの体力向上の推進 幼児期における運動遊びの習慣化の充実を図るため、関係団体と連携しながら情報提供に努める。</p> <p>2 小中学校の体育等に関する活動の充実 児童生徒に運動習慣や健康的な生活習慣を身に付けさせるための具体的な施策を検討する。</p> <p>3 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実 スポーツ少年団等の連携強化による体力レベルの底上げを図るため、関係団体との情報交換の場の設定を引き続き検討する。</p>
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○様々な取組が行われており成果を挙げている。引き続き、学校、スポーツ少年団、スポーツクラブとの連携を図り、子どもの体力向上、健康づくりに努めていただきたい。</p> <p>●新体力テストにおいて、県平均よりも低い検査項目については、その項目の運動特性を把握し、学校と連携しながら向上に努めてほしい。</p> <p>●自校に希望する種目の部活動がなかったり、部員数の不足からチームを組めなかったりした場合の対応が、これまで以上に求められる。当該校や当該生徒に対し、スポーツ少年団や受け皿となる学校を紹介するなど、何らかの支援にあたりたい。</p>

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	② ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
方針・目標	市民が、体力や年齢等に応じて、安全にスポーツに親しむことができるように、スポーツへの参加を促進する機会や環境の整備を推進します。
事業・取組名	(1) 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 (2) 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 (3) 障がい者が生き生きと運動・スポーツに参加できる環境の整備 (4) 健康づくり運動の推進 (5) スポーツを支える組織の充実・連携やボランティアの育成 (6) スポーツにおける安全の確保
目標値	成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(65%程度)となることを目指します。
前年度の意見と対応	<p>■ スポーツ実施率を向上させるため、底上げを図る努力を</p> <p>■ チャレンジデーでの初勝利を機に、運動の習慣化に結びつける取組の提案を ⇒成人の週1回以上のスポーツ実施率及びチャレンジデーの参加率が向上したことから、引き続き関係団体等との連携、協働を図りながら教室や大会の開催、競技団体への支援を進めていきます。</p> <p>■ スポーツ推進委員の資質向上や各種大会を支えるボランティアスタッフの育成について、各競技団体等と連携し、計画的・継続的な取組を ⇒全国大会等への研修参加を通じてスポーツ推進委員の資質向上を図っていきます。きみまち二ツ井マラソン等スポーツ大会のボランティアスタッフ育成については、「ささえるスポーツ」の観点から参加意識をより高めるために全市的に広報等周知に努めます。</p>
事業の実績	<p>1 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充</p> <p>① 関係団体と連携し子育て世代等の運動機会の確保に取り組んだ。 ・市体育協会 体験版！ファミリースポーツ教室</p> <p>② チャレンジデーの際に各地域でできるスポーツ・運動を紹介した。 ・市民参加型イベント数を5つ増やした。 ・防災無線を活用したラジオ体操の実施地域を拡大した。</p> <p>2 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 関係団体と連携し福祉と連動した健康づくり事業を展開している。 ・市体育協会 シルバースポーツの日(能代会場、二ツ井会場) ・総合型地域スポーツクラブ 各種講座、交流大会の開催</p> <p>3 障がい者が生き生きと運動・スポーツに参加できる環境の整備</p> <p>① 施設指定管理者において障がい者用設備の維持管理に努めている。 ② 市障がい者スポーツ・レクリエーション大会に協力している。 ・スポーツ推進委員の派遣を行った。</p> <p>4 健康づくり運動の推進</p> <p>① チャレンジデー等のイベントを活用した運動機会の創出に努めている。 今年4回目の参加で、参加率が43.1%から44.2%にあがった。 ② のしろ歩け歩け大会を開催し、風の松原内のウォーキングを通じて健康づくりの意識を高めた。</p>

	<p>5 スポーツを支える組織の充実・連携やボランティアの育成</p> <p>①総合型地域スポーツクラブの普及・発展への支援を行っている。 市体育協会が中心となり、市中心部に新たな総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブのしろ」を設立、市はアドバイザーとして参画した。</p> <p>②市スポーツ推進委員の資質の向上と連携強化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会等への参加（郡市、全県、東北、全国、女性） ・主催事業等の実施 ・各種事業等への委員派遣 <p>6 スポーツにおける安全の確保</p> <p>①スポーツ施設等の安全対策の充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の市体育協会と連携し各種点検、安全指導に努めた。 <p>②関係団体と連携しスポーツ医科学の普及を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会主催で「スポーツ医科学研修講座」を実施した。 ・市スポーツ少年団においてSAQトレーニングの実技講習会を年2回開催した。
<p>点検・評価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input checked="" type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人の週1回以上のスポーツ実施率（市民意識調査） 目標値にはまだ届かないものの前年度より、2.3ポイントの増となった。 28年度 50.3%（27年度 48.0%） ・チャレンジデーは、参加率44.2%という結果となり前年を上回った。 ・市中心部の総合型地域スポーツクラブは市体育協会が立ち上げの中心となり市がアドバイザーとして参画、28年度からスタートした。 拠点施設（能代市総合体育館）がありスタッフも充実していることから安定した運営が期待できる。 ・市スポーツ推進委員は多くの大会等（全県、東北、全国ほか）に参加し、先進事例の研修や他地域のスポーツ推進委員との情報交換を通じて資質向上を図ることができた。
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>1 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 継続事業は、各種教室や研修会等それぞれの団体において実施できている。成人の週1回以上のスポーツ実施率が上がったことから、引き続きニーズに対応したプログラムの提供や情報提供の工夫、利用しやすいスポーツ施設の運営等、各団体との連携を図っていく。</p> <p>4 健康づくり運動の推進 チャレンジデーは、スポーツや健康づくり、地域の絆づくりに効果的である。参加率も回数を重ねる毎に増加してきていることから、さらに各団体や地域と連携を深め、参加率の向上とスポーツの習慣化を図っていく。</p> <p>5 スポーツを支える組織の充実・連携やボランティアの育成 スポーツ環境を支えるボランティアスタッフの育成が急務であり、既存の能代カップやきみまち二ツ井マラソンのボランティア及び各競技団体等への情報提供に努め、後継者の育成や資質の向上を図っていく。</p>

学識経験者の意見	<p>○様々な取組が行われており成果を挙げている。今後とも、高齢者も、障がい者も、様々な人たちが世代を超えてスポーツに取り組み、健康づくりができるように努めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">●成人の週1回以上のスポーツ実施率は、目標値には届かなかったものの、前年度よりも高くなった。市民のニーズに対応したプログラムの提供やスポーツに参加できる環境の整備などが要因と思う。●青・壮年者や高齢者、障がい者が、スポーツを通して健康で明るく生き生きとした生活を送れるよう、各種のスポーツ教室や大会が開催されている。
----------	--

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	③ スポーツを活用した地域の活性化
方針・目標	スポーツを通じた交流による、人々の一体感の醸成と活力ある地域社会の実現を目指します。
事業・取組名	1 スポーツを活用した地域づくり 2 スポーツによる交流人口の拡大 3 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進
目標値	スポーツを活用した、地域のにぎわい創出と大規模スポーツ大会の情報発信に取り組めます。
前年度の意見と対応	■地域おこしにつながるスポーツ大会とイベントとの連動 ⇒関係団体等との連携、交流の推進を図っています。 ■バスケによる地域経済の活性化の実現に向けた努力 ⇒合宿や大会の誘致、各種イベントなどにバスケットボールを組み入れることで誘客を図っていきます。
事務事業の実績	1 スポーツを活用した地域づくり ①子どもたちの夢と希望を育むスポーツ機会を創出した。 ・JFA主催の「夢の教室」開催。トップアスリートが実技や講義を行った。 12校実施 372名受講 講師9名(6種目) ②関係団体と連携し、スポーツ合宿等を行った。 ・市体育協会に委託してバスケのサマーリーグを招致した。(補助金) 合宿参加チーム 6チーム、198名(H27: 8チーム、219名) 2 スポーツによる交流人口の拡大 ①関係団体、民間企業等と連携し、スポーツによる交流の推進を図った。 ・きみまち二ツ井マラソン 1,857人参加 (H27: 1,937人) ・マラソンとあわせ地元企業等による物産フェア(きみまちの里フェスティバル)を開催した。観客数 12,211人(H27: 11,798人) ・マラソンボランティアの育成が図られた。413人(H27: 397人) ・能代球場リニューアルオープン記念事業 ア 高等学校野球招待試合(秋田県高野連・能代市野球協会主催) 5月3日～5日 出場校5校(うち県外2校) 入場者数13,500人 イ プロ野球イースタン・リーグ公式戦(楽天球団主催) 7月24日 楽天対日本ハム 入場者数1,575人 試合終了後、野球選手とのふれあいイベントを実施 ・全県大会以上の開催 ア 全国大会 5回 イ 東北大会 7回 ウ 全県大会 56回 ②新たなスポーツの魅力の発掘及び開発支援 ・市体育協会で新しいスポーツとして「バブルサッカー」の取組を始めた。 ③大規模なスポーツ大会・イベントと連動した観光誘客 ・能代カップの際、バスケミュージアムで特別展やトークショー、チアダンス教室など開催。また、商店街の協力も得てバスケロードフェスティバルなどを開催し、誘客に努めた。

	<p>3 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進</p> <p>①本物のバスケに触れられる街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・bリーグ秋田ノーザンハピネッツ（プロバスケ）のホームゲームが開催された。 ・リオデジャネイロパラリンピック車椅子バスケットボール男子日本代表の強化合宿が行われた。 <p>②バスケで誰でも集える環境づくり</p> <p>③バスケによる地域経済の活性化</p> <p>④バスケがどこでも感じられる街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケのまちづくり事業での展開だが、能代カップ（補助金）、市教育長杯ミニバスケットボールを市体育協会に委託し事業を継続した。 <p>能代カップ入場者数：5,088人（H27 6,130人）</p>
<p>点検・評価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートや指導者に触れることにより、スポーツの素晴らしさや夢に向かって努力する大切さを学ぶことができた。 ・マラソンと物産フェアの合同開催により、スポーツを通じた交流人口の拡大が図られた。 ・各担当課、関係団体がこれまでどおり事業を継続し、概ね現状維持はできた。
<p>課題及び今後の取組の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>2 スポーツによる交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントは競技団体が主体となることから情報収集し、円滑な運営をしていくよう引き続きノウハウの蓄積に努める。 ・市民への情報発信の方法（広報、市ホームページ、SNS等）の検討について関係団体と連携し、媒体の選択も含め、効率的な伝え方を工夫していく。
<p>学識経験者の意見</p>	<p>○スポーツを地域経済の振興にも活用されており、今後も一層進めていただきたい。また、市民全体が支える意識を持つように、今後も情報発信やボランティアの確保・拡大などに取り組んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「夢の教室」の開催は、子どもたちがトップアスリートや指導者から直接指導を受けることを通して、スポーツのすばらしさや夢に向かって努力する大切さを学ぶことができる貴重な機会となっている。今後も続けてほしい。 ●「バスケの街づくり」に向けて様々な取組が行われている。bリーグ秋田ノーザンハピネッツのホームゲームの開催や、車椅子バスケットボール男子日本代表の強化合宿などを通して、交流人口の拡大につながった。

基本目標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施策項目	④ 市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備
方針・目標	指導者や施設の充実等、市民が主体的に参画するスポーツ環境を整備します。
事業・取組名	1 地域のスポーツ指導者等の充実 2 スポーツ施設の充実 3 スポーツに関する表彰制度の整備 4 地域スポーツと関係団体との連携
目標値	スポーツ施設の指定管理者と連携し、安全で利便性の高い施設の充実を図ります。
前年度の意見と対応	<p>■スポーツ指導者の養成・確保 ⇒関係団体と連携・協働し、研修機会の充実を図ります。</p> <p>■体罰・ハラスメント等が生じない人権意識、コンプライアンスの意識の啓発と、相談窓口の整備 ⇒体罰やハラスメントのない育成環境の整備の検討を行います。</p> <p>■表彰制度の継続 ⇒関係団体と連携し、制度の充実を図ります。</p>
事務事業の実績	<p>1 地域のスポーツ指導者等の充実</p> <p>①地域のスポーツ指導者の育成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ推進委員会、市体育協会、市スポーツ少年団等研修会の開催や派遣を行った。 ・研修会参加等の支援を行った。 ・スポーツ少年団指導者資格数 43団体 357人 (H27: 391人) <p>②スポーツリーダーバンク等の整備・充実の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ少年団の講師派遣型スポーツセミナーを実施した。 ・市体育協会スポーツリーダーバンク登録者数 40人 <p>2 スポーツ施設の充実</p> <p>①スポーツ施設の整備・改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B&G体育館に防球ネットを設置した。 ・能代市総合体育館改修工事実施設計を実施した。 ・土床体育館、落合第一球場、誠邦園球場グラウンド整備を実施した。 <p>②学校体育施設等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録スポーツクラブ制度により、学校体育館開放を継続して行った。 <p>③利用者ニーズに対応した施設の管理運営と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者による定期点検など安全管理を行っている。 ・施設利用者アンケートの結果を反映して改善に努めた。 ・施設年間利用者数 322,946人 (H27: 337,120人) <p>④自然環境や屋外施設を活用したスポーツと健康づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催 のしろ歩け歩け大会(風の松原、風の松原陸上競技場) ・市体育協会 マリンスポーツ事業(米代川河口付近) <p>3 スポーツに関する表彰制度の整備</p> <p>児童・生徒の表彰(能代市栄光賞、市体育協会スポーツ賞)を継続して行った。</p> <p>4 地域スポーツと関係団体との連携</p> <p>①自治会等地域組織との連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジデー周知の際、各種会合等でのPRや回覧板での周知依頼を継

	<p>続した。</p> <p>②事業所におけるスポーツ活動の連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジデーの参加協力依頼のため、従業員の多い企業へ訪問した。 ・きみまち二ツ井マラソンボランティアとして企業からの協力を得た。 <p>③医療機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のしろ健康21推進委員会や、のしろチャレンジデー実行委員会等に相互に役員枠を設け連携を継続した。
点 検 ・ 評 価	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/>目標をやや下回る</p> <p><input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備等により、利用者が、良好なコンディションで競技できる環境整備を推進した。 ・体育施設の管理運営に関し、アンケート結果を反映して改善に努めたことにより、利用者ニーズの対応が図られた。
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	<p><input type="checkbox"/>拡充 <input checked="" type="checkbox"/>継続 <input type="checkbox"/>廃止検討 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <p>1 地域のスポーツ指導者等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ環境を整備する上で指導者の養成・確保は重要な点であり、そのための研修会受講や資格取得に関わる人材の発掘は必須であることから、各団と連携し取り組んでいく。さらに、養成した指導者を効果的に活用するよう市体育協会のスポーツリーダーバンク等による指導者の派遣を行っていく。 <p>2 スポーツ施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な施設の維持管理を行う。 ・経年劣化している施設の整備について、計画的な修繕及び改修を行う。 <p>3 スポーツに関する表彰制度の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で活躍する選手に対する表彰制度の検討を引き続き行う。 <p>4 地域スポーツと関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツへの参加は、各地域や事業所において行われることが習慣化につながることから、各自治会や事業所で自主的にできる運動・スポーツを再発見するため、引き続き連携して取り組んでいく。 ・各種団体と連携が図れるよう、更なる情報交換の機会を設ける。
学 識 経 験 者 の 意 見	<p>○スポーツ指導者の研修等において、精神主義や服従ではなく、科学的・合理的な態度、人権尊重、安全確保などに引き続き努めていただきたい。財政的な問題はありますが、計画的に施設・設備等の更新・充実にあたっていただきたい。</p> <p>●B & G 体育館の防球ネットの設置や、土床体育館・落合第一球場・誠邦園球場の整備など、スポーツ施設の整備・改修が計画的に行われている。</p> <p>●児童・生徒の表彰（能代市栄光賞、市体育協会スポーツ賞）は、子どもたちにとって、スポーツ・文化活動を続けるうえでの大きな励みになっている。今後とも継続してほしい。</p>

Ⅲ 教育委員会の運営状況

(1) 教育委員会の開催状況

① 開催状況

定例会 12回 臨時会 3回

② 審議された案件等

年月日	区分	番号	件名
H28. 4. 27	定例会	議案 第14号	能代市立小、中学校学校評議員の委嘱について
		議案 第15号	能代市教育支援委員会委員の任命について
		議案 第16号	能代市公民館活動協力員の委嘱について
		議案 第17号	能代市二ツ井公民館分館運営委員の委嘱について
		報告 第5号	能代市奨学選考委員会委員の委嘱について
H28. 5. 24	定例会	議案 第18号	能代市社会教育委員の委嘱について
		議案 第19号	能代市公民館運営審議会委員の委嘱について
		議案 第20号	能代市子ども館運営協議会委員の委嘱について
		議案 第21号	能代市文化会館運営協議会委員の委嘱について
		協議 4	平成27年度能代市一般会計補正予算について
H28. 6. 30	定例会	報告 第6号	能代市生涯学習奨励員の委嘱について
		議案 第22号	能代市小規模小学校の在り方協議会設置要綱の制定について
		議案 第23号	能代市立図書館協議会委員の任命について
H28. 7. 26	定例会	議案 第24号	能代市小規模小学校の在り方協議会委員の委嘱について
		報告 第7号	能代市青少年問題協議会委員の委嘱について
H28. 8. 25	定例会	議案 第25号	能代市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
		協議 5	平成28年度能代市一般会計補正予算について
		報告 第8号	能代市生涯学習推進協議会委員の委嘱について
H28. 9. 29	定例会	議案 第26号	史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画の策定について
		議案 第27号	史跡檜山安東氏城館跡調査整備委員会設置要綱の制定について
H28. 10. 18	定例会	議案 第28号	能代市教育支援委員会委員の任命について
H28. 11. 24	定例会	協議 6	能代市中央公民館、能代市文化会館、能代市勤労青少年ホーム及び能代市働く婦人の家の指定管理者の指定について
		協議 7	能代市二ツ井公民館及び能代市二ツ井公民館二ツ井分館の指定管理について
		協議 8	平成28年度能代市一般会計補正予算について
H28. 12. 27	定例会	議案 第29号	能代市教育委員会事務決裁規程の一部改正について
		議案 第30号	能代市就学援助費支給要綱の一部改正について
		議案 第31号	能代市教育委員会関係職員の人事異動について
		議案 第32号	学校給食費の額の改定について
H29. 1. 26	定例会		案件なし
H29. 2. 1	臨時会	議案 第1号	能代市小規模小学校の在り方に関する基本方針について
H29. 2. 20	定例会	協議 1	能代市公民館条例の一部改正について
		協議 2	能代市文化会館条例の一部改正について
		協議 3	能代市勤労青少年ホーム条例の一部改正について
		協議 4	厚生年金能代市体育館条例の廃止について
		協議 5	能代市屋外運動施設条例及び能代市屋外運動施設使用料条例の一部改正について
		協議 6	平成28年度能代市一般会計補正予算について
		協議 7	平成29年度能代市一般会計予算について
H29. 3. 1	臨時会	議案 第2号	平成29年度能代市立小・中学校教職員の人事異動について

年月日	区分	番号	件名
H29. 3. 27	臨時会	議案 第3号	能代市教育委員会関係職員の人事異動について
		議案 第4号	平成29年度能代市教育委員会関係職員の人事異動について
H29. 3. 27	定例会	議案 第5号	能代市招致外国青年の勤務条件等に関する規則の一部改正について
		議案 第6号	能代市生涯学習施設サン・ウッド能代の管理運営に関する規則の一部改正について
		議案 第7号	厚生年金能代市体育館管理規則の廃止について
		議案 第8号	能代市屋外運動施設管理規則の一部改正について
		議案 第9号	能代市個人演説会の設備の程度及び候補者が納付すべき費用の額に関する規則の一部改正について
		議案 第10号	能代市就学援助費支給要綱の一部改正について
		議案 第11号	能代市教育相談員に関する要綱の一部改正について
		議案 第12号	能代市心の教室相談員に関する要綱の一部改正について
		議案 第13号	能代市学校薬剤師の委嘱について
		議案 第14号	能代市教育相談員の委嘱について
		議案 第15号	能代市適応指導教室指導員の委嘱について
		議案 第16号	能代市心の教室相談員の委嘱について
		議案 第17号	能代市社会教育指導員の委嘱について
		議案 第18号	能代市子ども館館長の任命について
		議案 第19号	能代市子ども館指導員の委嘱について
		議案 第20号	能代市二ツ井公民館分館主事補の委嘱について
		議案 第21号	能代市スポーツ推進委員の委嘱について
		議案 第22号	平成29年度能代市学校教育指導の重点について
		報告 第1号	教育委員会委員の任命について
		報告 第2号	能代市青少年問題協議会委員の委嘱について
		報告 第3号	平成29年度能代市生涯学習推進方針について
		報告 第4号	平成29年度能代市青少年健全育成活動方針について
	協議 8	損害賠償の額の決定及び和解について	

(2) 教育委員の活動状況

年月日	行事
H28. 5. 26	全州市町村教育委員会委員長・教育長会議（第1回）
H28. 6. 1	能代山本市町教育委員会連合会総会
H28. 7. 15	東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会
H28. 7. 25	檜山安東氏城館跡発掘現場視察
H28. 8. 14	能代市成人式
H28. 8. 22 ～8. 23	豊島区と能代市の教育交流
H28. 8. 26	全州市町村教育委員会連合会および秋田県都市教育長協議会合同研修会
H28. 10. 1	小学生ふるさと学習交流会
H28. 10. 13	能代山本市町教育委員会連合会委員研修会
H28. 11. 18	能代っ子中学生ふるさと会議
H29. 1. 13	市町村教育委員研究協議会（第1回）
H29. 2. 17	市町村教育委員研究協議会（第3回）
H29. 3. 12	市内中学校卒業式
H29. 3. 17	能代市青少年問題協議会
H29. 3. 19	市内小学校卒業式

能代市教育委員会事務点検・評価報告書
(28年度対象)

能代市教育委員会

〒018-3192

能代市二ツ井町字上台1番地1

(担当 教育総務課)

電 話 0185-73-2757

FAX 0185-73-6459

E-mail kyouiku@city.noshoro.akita.jp